

令和4年度(2022年度)

私費外国人留学生募集要項

<最新情報 確認のお願い>

新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じて、やむを得ず、試験日時や選抜方法等を変更する可能性があります。

変更する場合は、本学ホームページ (<https://www.nagoya-u.ac.jp/>) で随時公表しますので、出願や受験の際は必ず最新の情報を確認してください。

<入学試験に関する照会先>

私費外国人留学生入試に関する照会は、以下のメールアドレスにお問い合わせください。
なお、問い合わせの際は、メールの件名を「私費外国人留学生入試について」とし、メール本文に氏名・出願（予定）学部学科等を、出願後の場合は受験番号を記入してください。

名古屋大学教育推進部入試課 nyuusi@adm.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学教育推進部入試課

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 D4-4 (100) TEL. (052) 789-5765

●窓口及び電話でのお問い合わせは、月曜日から金曜日の9時から17時（祝日を除く）までです。



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



携帯電話用ウェブサイト

<https://daigakujc.jp/nagoya-u/>



※不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は、次のホームページ等により周知しますので、出願前や受験前は特に注意してください。

- ◇ 名古屋大学ホームページ
URL <https://www.nagoya-u.ac.jp/>
- ◇ 連絡窓口
教育推進部入試課
TEL 052-789-5765

〈Changes in examination schedule and procedures due to unforeseen circumstances〉

The examination schedule and selection measures may be modified in the event of an outbreak of infectious disease or other unforeseen circumstances. Please check the website regularly for the latest notices, especially in the days preceding the application and examination periods.

- Nagoya University Website
<https://www.nagoya-u.ac.jp/>
- Contact Info:
Admissions Division, Education and International Affairs Department
Tel (052) 789-5765

自然災害等により被災した入学志願者に係る検定料の特別措置について

名古屋大学では、自然災害等による被災者の経済的負担を軽減し、受験生の進学機会の確保を図るため、本入試の検定料の免除を実施する場合があります。詳細については、本学ホームページを確認してください。

- 本学ホームページ
URL <https://www.nagoya-u.ac.jp/>
入学案内→学部募集要項／大学案内など→自然災害等により被災した入学志願者に係る
検定料の特別措置について(学部入試)

Entrance Exam Fee Special Exemption for Applicants who are Victims of Natural Disasters

Nagoya University will be implementing a special measure for victims of natural disasters with an entrance examination fee exemption, alleviating the economic burden and securing educational opportunities for applicants from the affected areas.

For details, please check the university website.

- University Website
URL <https://www.nagoya-u.ac.jp/>

名古屋大学学術憲章

名古屋大学は、学問の府として、大学固有の役割とその歴史的、社会的使命を確認し、その学術活動の基本理念をここに定める。

名古屋大学は、自由闊達な学風の下、人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする。とりわけ、人間性と科学の調和的発展を目指し、人文科学、社会科学、自然科学をともに視野に入れた高度な研究と教育を実践する。このために、以下の基本目標および基本方針に基づく諸施策を実施し、基幹的総合大学としての責務を持続的に果たす。

1. 研究と教育の基本目標

- (1) 名古屋大学は、創造的な研究活動によって真理を探究し、世界屈指の知的成果を産み出す。
- (2) 名古屋大学は、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる。

2. 社会的貢献の基本目標

- (1) 名古屋大学は、先端的な学術研究と、国内外で指導的役割を果たしうる人材の養成とを通じて、人類の福祉と文化の発展ならびに世界の産業に貢献する。
- (2) 名古屋大学は、その立地する地域社会の特性を生かし、多面的な学術研究活動を通じて地域の発展に貢献する。
- (3) 名古屋大学は、国際的な学術連携および留学生教育を進め、世界とりわけアジア諸国との交流に貢献する。

3. 研究教育体制の基本方針

- (1) 名古屋大学は、人文と社会と自然の諸現象を俯瞰的立場から研究し、現代の諸課題に応え、人間性に立脚した新しい価値観や知識体系を創出するための研究体制を整備し、充実させる。
- (2) 名古屋大学は、世界の知的伝統の中で培われた知的資産を正しく継承し発展させる教育体制を整備し、高度で革新的な教育活動を推進する。
- (3) 名古屋大学は、活発な情報発信と人的交流、および国内外の諸機関との連携によって学術文化の国際的拠点を形成する。

4. 大学運営の基本方針

- (1) 名古屋大学は、構成員の自律性と自発性に基づく探究を常に支援し、学問研究の自由を保障する。
- (2) 名古屋大学は、構成員が、研究と教育に関わる理念と目標および運営原則の策定や実現に、それぞれの立場から参画することを求める。
- (3) 名古屋大学は、構成員の研究活動、教育実践ならびに管理運営に関して、主体的に点検と評価を進めるとともに、他者からの批判的評価を積極的に求め、開かれた大学を目指す。

目 次

	頁
名古屋大学の教育を支える3つの方針	1
各学部の教育を支える3つの方針	3
I 出願資格及び要件	19
II 募 集 人 員	27
III 選 抜 方 法	28
1. 試験期日、試験科目及び試験時間等	28
2. 実施方法及び出題範囲	30
IV 出 願 手 続	32
1. 出願書類の提出方法	32
2. 出 願 期 間	32
3. 出願に要する書類等	32
4. 検定料の払込方法	35
5. 受験票の交付	37
6. 障害のある者等の出願	37
7. その他	37
V 受 験 上 の 注 意	37
VI 合 格 者 発 表	37
VII 入 学 手 続	38
VIII 個人情報の取扱い	39
IX 令和3年度 名古屋大学私費外国人留学生入試 志願者・受験者・合格者数一覧	40
大学案内及び学部紹介冊子の請求方法	41

名古屋大学の教育を支える3つの方針

名古屋大学の教育の基本理念と育成する人間像

名古屋大学は「学術憲章」(2000年制定)で、「名古屋大学は、自由闊達な学風の下、人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする。とりわけ、人間性と科学の調和的発展を目指し、人文科学、社会科学、自然科学をともに視野に入れた高度な研究と教育を実践する」と、その使命を定めています。さらに「学術憲章」では「研究と教育の基本目標」として、「(1)名古屋大学は、創造的な研究活動によって真理を探究し、世界屈指の知的成果を産み出す。(2)名古屋大学は、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる」という基本理念を掲げています。

この「学術憲章」に示される基本理念の下で、名古屋大学は日本における基幹総合大学の一つとして、創造的な教育・研究活動を通じ、豊かな文化の構築と科学・技術の発展に寄与してきました。21世紀に入り6名のノーベル賞受賞者を輩出するなど世界屈指の研究成果を生み出すとともに、既存の権威にとらわれることのない自由闊達な学風の下、多数の進取の気性に富んだリーダー人材を育成してきています。名古屋大学はこれらの人材や知的成果を広く社会に提供するための開かれた大学づくりに努めています。冒頭で述べたように、「勇気ある知識人」を育成する人間像として示しています。

「勇気ある知識人」とは、責任感をもって社会に貢献しようとする高い志とグローバルな視野をそなえ、幅広い教養と高い専門性を身につけ、人々の幸福や持続可能な社会の発展を妨げる諸問題の解決に積極的に寄与できる人材を言います。このような真の勇気と知性を持ち、未来を切り拓いていける人が、名古屋大学が育成しようとしている人間像なのです。

この「勇気ある知識人」を支える力となるのが、十分な知識・技能、主体的な創造性、立ち向かう探究心です。こうした優れた資質・能力を持った人を、名古屋大学は、多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって育成しています。

3つの方針に基づく大学教育の質の向上

名古屋大学では、このような教育を適切に実施するため、①卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、②教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、③入学者受入れ・選抜の方針(アドミッション・ポリシー)という3つの方針を学士課程及び大学院課程において定め、広く学内外に向けて公表しています。

これらの方針は、名古屋大学の教職員にとっては、大学がめざす教育を実現するための指針であり、つねに立ち戻って教育のあり方を点検するための指標でもあります。名古屋大学への入学を志望する者にとっては、入学後に期待できる教育のあり方や、入学までに身につけておくべき素養について知るための情報源となります。また、名古屋大学に在学する学生にとっては、本学で提供されている教育が何をめざしているのかを普段から意識するための手がかりとなります。さらに卒業生や修了生の活躍の場となる社会にとっては、名古屋大学がどのような資質・能力をそなえた人材を育てているのかを理解する拠りどころとなります。

これら3つの方針は、相互に密接に関連してこそ、その真価を発揮します。名古屋大学では、教育の基本理念と育成をめざす人間像を起点として、3つの方針を一体的に定めています。そして、このように一体的に定められた3つの方針に照らして、本学の教育のあり方を自己点検・評価し、教育の質を向上させていく取組を積極的に進めています。

学 士 課 程

名古屋大学の教育理念を実現する 3 つの方針

名古屋大学は、学術憲章に基づく教育の目的や目標にそった、①「卒業認定・学位授与の方針」、②それを実現する「教育課程の編成・実施の方針」、③提供する教育プログラムに適った学生を選抜する「入学者受入れ・選抜の方針」を明確にした教育活動を行っています。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

名古屋大学は、各学部の教育目標と基準に沿った資質・能力の卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学士の学位を授けます。名古屋大学の学位は、真の勇氣と知性を持ち、未来を切り拓いていく「勇氣ある知識人」として、それぞれの学術分野で、十分な知識・技能、主体的な創造性、立ち向かう探究心が培われたことを証します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

名古屋大学は、高度で幅広い教養を育むための教養教育と、飽くことなき探究心の涵養と新たな知の主体的創造につながる専門教育との二本柱からなる体系的な教育課程により、学生を育てます。多様な授業形態の組み合わせによる教育課程の展開と自発的な学修の促進を図り、学術分野の特徴を活かした、教育実践及び学修指導を適切に実施します。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

名古屋大学は、未来の「勇氣ある知識人」を目指す人を国内外に求めます。各学部・学科の学術分野の特徴に基づき、基礎的な学力とそれを活用する能力、さらにそれを発展させようとする意欲や態度を適正に評価して選抜する入試を実施します。

文学部の教育を支える3つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

文学部は、以下に示す資質・能力等を備え、卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授与します。

文学部が授与する学位は、言語・文化・歴史に対する深い探究心と社会・環境への強い関心を持ち、高い異文化理解力を備えた人材であり、また、人文学的教養を通して、国際社会・地域社会の諸問題の解決に寄与しうる人材であること、そして、「高い異文化理解能力と言語運用能力」、「文献や資料を収集・読解・分析する能力」、「専門分野における基本的な研究方法を理解し、応用する力」、「論旨の一貫した文章構成能力とプレゼンテーション力」、「現代社会が直面する諸問題に専門分野の知見に基づき対応できる能力」を備えていることを証します。

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

文学部の卒業要件は、原則として4年以上在学し、所定の授業科目のうち、全学教育科目を48単位以上、専門科目を84単位以上、合計132単位以上を履修し、かつ卒業論文の試験に合格することです。なお、専門科目の単位数には卒業論文10単位が含まれます。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部では、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質や能力を身につけた人材を育成するため、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

1. 全学教育科目の中の言語文化科目によって、「高い異文化理解能力と言語運用能力」の基礎を身につけます。
2. 全学教育科目の中の基礎セミナーによって、「文献や資料を収集・読解・分析する能力」および「論旨の一貫した文章構成能力とプレゼンテーション力」の基礎を身につけます。
3. 全学教育科目の中の文系基礎科目や文系教養科目で、「専門分野における基本的な研究方法を理解し、応用する力」の概略を学びます。
4. 専門科目の履修によって、「専門分野における基本的な研究方法を理解し、応用する力」を修得し、「文献や資料を収集・読解・分析する能力」や「論旨の一貫した文章構成能力とプレゼンテーション能力」、「高い異文化理解能力と言語運用能力」を高めます。
5. これらの能力について、小論文や筆記試験、口頭発表、討議への貢献度など、各授業において定める方法によって単位認定を行います。
6. 卒業論文を書き上げることによって、これらの能力が身についたことを確認します。
7. カリキュラム全体の履修を通して、「現代社会が直面する諸問題に専門分野の知見に基づき対応できる能力」を身につけます。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

文学部では、養成する人材像とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、「人文学分野の研究に取り組むのに必要な基礎的な学力を備え、人間の営為としての言語・文化・歴史に深い関心を持ち、社会・環境など現代社会が抱える諸問題を考えることに意欲がある人」を入学者として選抜します。

（2）選抜の基本方針

私費外国人留学生入試

アドミッション・ポリシーに適合した人材を選抜するため、提出書類、小論文の成績および面接の結果を総合的に判断し選抜を行います。「人文学分野の研究に取り組むのに必要な基礎的な学力」は提出書類および面接によって判定します。「人間の営為としての言語・文化・歴史に対する深い関心」や「社会・環境など現代社会が抱える諸問題を考える意欲」については、提出書類、小論文、面接によって総合的に判定します。

教育学部の教育を支える3つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

教育学部は、以下に示す資質・能力等を備え、卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授与します。

「人間発達科学の知見と方法を学び、論理的・批判的思考力と判断力、協働的コミュニケーション能力を有し、省察と探究の習慣を自ら育むことができる」

「人間と社会の諸問題に絶えず関心をよせ、勇気と熱意をもって向き合い、問題解決に協働的に取り組むことができる」

「社会的正義の感覚を有し、人類と社会の調和的発展とウェルビーイングに貢献できる」

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

学士学位授与のためには、全学の「名古屋大学の教育を支える3つの方針」に則って開講される「全学教育科目」（合計48単位以上）ならびに、上記の目的のために本学部で開講される「教育学部専門科目」（専門科目，コース科目，卒業論文，合計84単位以上）を履修することが要件となります。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育学部では、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質や能力を備えた人材を育成するために、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- 1）本学部のカリキュラムは、全学教育科目と専門科目から構成され、専門科目は専門基礎科目，コース科目，卒業論文から構成されています。
- 2）全学教育科目により「高度で幅広い教養」を身につけるとともに、「人間と社会の諸問題に対する関心」を高め、また「コミュニケーション能力や論理的・批判的思考力と判断力」を養います。
- 3）専門科目の専門基礎科目により、「人間発達科学の専門基礎的な知識と技能」について幅広く学び、さまざまな視点と知見，基礎的な研究技法を習得します。専門科目のコース科目は、小規模な開講形態（講義，演習，実験演習，実習，調査研究等）により実施し、これらの履修により、「人間発達科学の専門的な知識と技能」を獲得し、また「人間と社会の諸問題」に対する「省察と探究の精神，問題解決能力，協働性とリサーチ・マインド」を身につけます。
- 4）これらの能力について、小論文や筆記試験，口頭発表，討議への貢献度など，各授業において定める方法によって単位認定を行います。
- 5）卒業論文では，指導教員の指導のもとで，独自の研究テーマを設定し特定の研究方法により探究をおこなうとともに，上記の能力が身につけていることを確認します。
- 6）カリキュラム全体の履修を通して、「社会的正義の感覚を有し，人類と社会の調和的発展とウェルビーイングに貢献できる」能力を身につけます。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（１）入学者受入れの方針

本学部は、人間の成長発達と教育をめぐるさまざまな問題を研究の対象とする教育発達科学の知見と方法を総合的に学ぶことによって、論理的・批判的思考力と判断力、協働的コミュニケーション能力を有し、省察と探究の習慣を自ら育むことができ、人間と社会の諸問題に絶えず関心をよせ、勇気と熱意をもって向き合い、問題解決に協働的に取り組むことのできる人材、さらには、社会的正義の感覚を有し人類と社会の調和的発展とウェルビーイングに貢献できる人材の育成を目的としています。

上記の目的を理解したうえで本学部への進学を志望する者には、次のような能力や資質が求められます。

- 1) 人間発達科学を学ぶための基礎的学力
- 2) 人間の成長発達と教育をめぐる多様な事象と問題に対する関心と問題意識
- 3) 人間と社会の諸問題に対して深い関心を持ち、教育と発達および社会的正義の視点から探究し、問題解決を志向し、人類と社会の調和的発展に貢献しようという意欲と熱意

（２）選抜の基本方針

私費外国人留学生入試

多様な文化的社会的バックグラウンドをもつ国内外の外国人留学生に対して、本学部での学習に必要な日本語能力、人間発達科学を学ぶための基礎的学力を評価するため日本留学試験（日本語、総合科学、数学コースⅠ）を課すとともに、上記の能力・学力に加え、人間の成長発達と教育をめぐる多様な事象と問題に対する関心と問題意識、さらには人間と社会の諸問題について教育と発達および社会的正義の視点から探究し、問題解決を志向し、人類と社会の調和的発展に貢献しようという意欲と熱意を評価するため、提出書類と個別学力検査（小論文ならびに面接）の総合評価により選抜を実施します。

法学部の教育を支える3つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

法学部は、以下の資質・能力等を備え、卒業要件を満たした者に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

- 1) グローバル化社会に通用する法律学・政治学の総合的な知識を、論理的に体系づけて修得する。
- 2) 大局的見地に立ってものごとを総合的に判断し、的確な価値判断・意思決定を行う能力を身につける。
- 3) 現代社会のさまざまな問題に積極的に関わり、専門分野の知見に基づいてその解決に寄与する能力を身につける。

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

法学部では、全学教育科目を「専門系」（基礎セミナー、文系基礎科目）と「非専門系」（その他）とに分類し、全学教育「専門系」科目 12～14 単位、同「非専門系」科目 36 単位、法学部「専門科目」82～84 単位（関連専門科目として、他学部の専門科目を 20 単位まで含めることができます）、合わせて 132 単位の修得を通じて、教育目標に掲げる人材であると証される者に、卒業を認定し、学士（法学）の学位を授けます。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

法学部は、学生が、（1）グローバル化社会に通用する法律学・政治学の総合的な知識を、論理的に体系づけて修得すること、（2）大局的見地に立ってものごとを総合的に判断し、的確な価値判断・意思決定を行う能力を身につけること、（3）現代社会のさまざまな問題に積極的に関わり、専門分野の知見に基づいてその解決に寄与する能力を身につけることができるよう、以下の方針に基づいて教育を実施します。

教育課程の編成の方針

- （1）学生が、グローバル化社会に通用する法律学・政治学の総合的な知識を、論理的に体系づけて修得するために、1 年次には、専門的な学修の土台として、政治学・法律学の各専門領域に通底すべき導入的・基礎的な科目群と、我が国の法体系の根底を成す基本的な専門科目「憲法Ⅰ」「民法Ⅰ」を配置し、2 年次以降、政治・公法領域、民刑事法領域、基礎法・社会法領域のそれぞれにおいて、各分野の基礎的な科目から発展的な科目まで、多様な科目を、国際的な視野の提供にも重きを置いて段階的・体系的に配置します。
- （2）学生が、大局的見地に立ってものごとを総合的に判断し、的確な価値判断・意思決定を行う能力を身につけるために、全学教育科目は、専門系科目（基礎セミナー、文系基礎科目）以外の非専門系科目（理系基礎科目、各種教養科目、健康・スポーツ科学、言語文化科目等）をも幅広く履修しなければならないこととし、それによって各専門科目の複眼的な学修を促進しています。文系基礎科目のうちの「日本国憲法」「法学」「政治学」は履修しても卒業単位に算入されないこととしているのも、同じ理由によるものです。
- （3）学生が、現代社会のさまざまな問題に積極的に関わり、専門分野の知見に基づいてその解決に寄与する能力を身につけるために、演習科目による少人数教育を重視しています。1 年次には、全学教育科目「基礎セミナー」を配置し、2 年次以降、「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」を順次配置するほか、4 年次には、「卒業論文」を配置します。これらの履修によって、各担当教員の専門分野のアクチュアリティーに触れ、具体的な課題へのアプローチとその解決に向けての探究を実践する学びが積まれることを促進しています。

教育・学習方法の方針

学生が、学年進行に沿って、視野を広げ、基礎を固め、発展的に学ぶプロセスを履み、それによって前記資質・能力等を段階的に培うことができるよう、各専門領域において、多様な内容・形態の授業科目を体系的に配置します。全ての授業科目について、その概要、到達目標、成績評価方法、各回のテーマ等を明記したシラバスを示します。ウェブシステムを利用するなどして、教科書・参考書・参考資料、授業時間外学習の指示、質問への対応方法等を提示し、学習を支援します。

学習成果の評価の方針

成績評価に当たっては、各授業科目のシラバスに示された、筆記試験、レポート、口頭発表その他の方法によって前記資質・能力等を確認し、単位認定を行います。講義科目においては、主に、法律学・政治学等の総合的な知識を、論理的に体系づけて修得していること、大局的見地に立ってものごとを総合的に判断し、的確な価値判断・意思決定を行う能力を身につけていることを、厳格に判定します。演習科目においては、主に、現代社会のさまざまな問題に積極的に関わり、専門分野の知見に基づいてその解決に寄与する能力を身につけていることを、厳格に判定します。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（１）入学者受入れの方針

法学部は、社会のルールとしての法律学・政治学を学ぶことを通じて、大局的見地に立って的確な価値判断・意思決定を行い、グローバル化社会のさまざまな問題の解決に向けて積極的に寄与し、未来を切り拓いていくことを目指し、かつ、そのために必要となる資質や能力を備えた人を、国内外に求めます。

（２）選抜の基本方針

私費外国人留学生入試

小論文と面接を日本語で実施し、幅広い基礎学力およびグローバル化社会のさまざまな問題の解決に向けて積極的に寄与するために必要な意欲や能力を評価します。面接には、筆記試験問題（小論文）に関連する追加質問のほか、専門分野に関する学習到達度の確認を目的とする口頭試問が含まれます。

経済学部の教育を支える3つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

経済学部は、以下に示す資質・能力等を備え、卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授与します。

「経済学・経営学の知識を有し、ビジネス活動を行う上でのコミュニケーション能力と協調性、将来のリーダーとしての資質を備えている」

「経済学・経営学の知見を駆使して、現代の企業や経済社会が直面する諸課題を把握・分析し、課題解決に取り組むことができる」

「現代のグローバルに活動を行う企業や経済社会において、合理的で実践的な意思決定を主体性をもって行える」

「現代の企業活動において必要不可欠な専門知識を備え、文献・資料から必要なデータやエビデンスを収集し、それに基づいた分析的なレポートを作成・プレゼンテーションする能力を有する」

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

卒業論文を含み、全学基礎科目、文系基礎科目、理系基礎科目、文系教養科目、理系教養科目、全学教養科目、専門基礎科目、専門科目、関連専門科目について所定の単位（全学教育科目 48 単位、専門基礎科目 28 単位、専門科目・関連専門科目 56 単位以上）を修得した者に対して、（1）の教育目標が求める資質や能力が育成されたものと総合的に判断し、学士の学位を授けます。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質や能力を身につけた人材を育成するため、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

（1）全学教育科目で幅広い教養を修得する、

（2）専門基礎科目で各専門分野の基礎知識を確実に修得する、

（3）専門科目（卒論研究を含む）と関連専門科目で基礎知識を応用する能力を育成する、

という三つの基本方針を打ち立てて、経済学・経営学において必要とされる幅広い教養を学び、それを基礎として学術の理論および応用を習得します。

上記のカリキュラム編成のもと、それぞれの科目区分の中に、講義・演習などの多様な形態の授業を配置し、学年進行にそって、基礎力、応用力、課題解決能力が段階的に涵養されるように教育・学習方法の方針を定めています。

上記の学習による成果の評価については、「全学教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」では、筆記試験・レポート・口頭発表など、各授業においてシラバスで定める方法により、上記で掲げた能力が身についたことを確認し、単位認定を行います。また、「卒業論文」に取り組むことによって「現代の企業や経済社会が直面する諸課題を理解・分析し、問題解決に取り組むことができる」力を身につけます。

カリキュラム全体の履修を通して、「経済学・経営学の知見を駆使して、現代の企業や経済社会が直面する諸課題を理解・分析し、問題解決に取り組むことができる能力」を身につけます。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

経済学・経営学の専門的な知識を学ぶための基礎的な学力を備え、ダイナミックに変化する現代の経済社会への鋭い関心を持って、経済活動に関わる諸問題を理論的・実証的に探究することができる学生の入学を求めます。

（2）選抜の基本方針

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生として、日本で経済学・経営学について学ぶ強い勉強意欲と基礎的な学力を備えた優秀な者を、日本留学試験と TOEFL 及び、小論文試験と面接により選抜します。

情報学部の教育を支える3つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

情報学部は、以下の基準にそった学力及び資質・能力等の卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授けます。

情報学部の学位は、細分化した学問諸分野を統合していくハブの役割を果たすと期待される「情報学」の教育と研究を通して、次のような資質・能力等が培われたことを証します。

- 1) 情報学の知見を駆使して、取り組むべき課題を発見し、それを解決できる
- 2) 情報学の知見を駆使した、組織マネジメントや制度設計について理解している
- 3) 情報社会の基盤となる仕組みやシステムの構想・設計について理解している

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

情報学部においては、全学教育科目は、全学基礎科目、文系基礎科目、文系教養科目、理系基礎科目、理系教養科目、全学教養科目から各学科が定める履修要件により44単位以上修得します。専門系科目は専門基礎科目、専門科目、関連専門科目、卒業研究からなります。専門基礎科目から30～34単位、専門科目から38～50単位、関連専門科目から2～10単位の合計84単位以上を修得します。専門科目には、卒業研究6単位が含まれます。卒業要件は、原則として4年以上在学し、合計128単位以上を修得し、かつ卒業研究の審査に合格することです。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

情報学部では、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」で掲げた資質を共通して涵養するために、想定される社会での活躍場面に応じた、より専門的な知識・技能・態度を獲得することを可能とする専門教育の課程を次の科目により編成します。

1) 全学教育科目

「基礎セミナー、言語文化、健康・スポーツ科学、文系基礎科目、文系教養科目、理系基礎科目、理系教養科目、全学教養科目」

2) 専門基礎科目

「スタートアップ科目群」

「情報科学技術の基礎となる科目群」

「自然や社会をシステムとして理解する基礎となる科目群」

「論理的に課題を発見・解決するための基礎となる科目群」

3) 学部共通の専門科目

「社会とのインタラクションのための科目群」

「情報倫理と法」、「アカデミック・イングリッシュ」、「アカデミック・ライティング」、「マネジメント」等

4) 学科ごとの専門科目

5) 関連専門科目

6) 卒業研究

情報学部では、共通的な資質と高度な専門性を兼ね備えた融合的人材を育成するため、全学教育科目、学部に共通の科目（専門基礎科目、および、学部共通の専門科目）、学科ごとの専門科目、関連専門科目、卒業研究で教育課程を編成します。一定の専門性を身につけた上で、さらに専門性を超えた知識・技能・態度を涵養するため、学部共通科目を、1～2年生だけでなく3～4年生に対しても配置します。

それぞれの科目区分の中に、講義、演習、実習などの多様な形態の授業を配置し、学年進行にそって、基礎力、応用力、課題解決能力が段階的に涵養されます。

「全学教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」「関連専門科目」では、レポート、筆記試験、口頭発表など、各授業においてシラバスで定める方法により、単位認定を行います。これら適切に配置された科目を修得し、「卒業論文」に取り組むことによって卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた3つの資質・能力等を兼ね備えた人材を育成します。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

情報学部は、情報学の各分野の研究者になりうる人材のみならず、情報学を駆使して、新しい価値の創出、課題の発見と解決、情報社会の基盤的仕組みの構想・設計等ができる人材、あるいは、企業や政府機関・国際機関等の組織を情報の観点からマネジメントできる人材、情報学に通じた科学諸分野の研究者になりうる人材を養成することを目標としています。そのため、このような人材育成の基盤となる次のような資質を持った多様な学生を、幅広く対象として入学者選抜を実施します。

- ア 幅広い情報学の知識とスキルを身につけるために必要な、十分な基礎的学力を有していること。
（学部共通）
- イ 情報の観点から世界を理解し、情報技術を駆使して諸科学を革新しようとする意欲を有すること。
（主に自然情報学科）
- ウ 社会の抱える問題と未来の社会像について問題意識をもち、情報学を用いて問題を解決し価値を創造しようとする意欲を有すること。（主に人間・社会情報学科）
- エ 社会と調和し、社会に価値をもたらす情報技術を創造しようとする意欲を有すること。（主にコンピュータ科学科）

自然情報学科、人間・社会情報学科、コンピュータ科学科への多様な資質と興味を持った学生を獲得するために学科ごとに選抜します。

（2）選抜の基本方針

私費外国人留学生入試

情報学部に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、学習成績・人物ともに優れ、特に情報を活用して人類の課題に挑む意欲のある者を選抜します。

情報学部の私費外国人留学生入試による募集人員は若干名とし、選抜方法は、小論文と面接により行い、合格者を決定します。（出願要件は学科によって異なります。）

理学部の教育を支える3つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

理学部は、以下に示す資質・能力等を備え、卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授与します。

- ・自然の理を解き明かそうとする探究心と独創的で柔軟な思考を有する
- ・基礎科学の研究をとおして、科学的素養を身に付け、社会の様々な分野で貢献することができる

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

学位を取得するためには、入学後、本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位（数理学部 138 単位、物理学部 132.5 単位、化学部 131.5 単位、生命理学部 132.5 単位、地球惑星科学部 133 単位）以上を修得することが必要です。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

理学部は、自然への探究心を涵養し独創的で柔軟な思考力を育成するために、年次進行に沿って下記の方針を定めています。

- （1）初年次教育は、基礎を学びながら自分の進みたい学科を選ぶ期間を設定しています。
- （2）全学教育科目と1年次に配置されている専門基礎科目を受講することにより、数学や理科の基礎科目はもちろん、物事に対する考え方や議論の方法そのものを学ぶ専門リテラシー、人文社会系の教養科目、外国語など、高度知識人に相応しい教養を身につけます。
- （3）1年次終了時に、希望や成績などによって各学科への配属が決定される学科分属制度を採用しています。この制度は、理学部の大きな特長で、総合的な視座から研究や社会をリードできる人材を育成しようとする考えに基づいています。
- （4）2年次以降は、各学科に分かれて、専門基礎科目や専門科目により、基礎から専門的な講義までを体系的に受講します。演習を取り入れ、実験系では多くの時間を実習にあてて重点的な指導を行っています。いずれの学科でも最新の研究成果を取り入れた教育を行っています。加えて、他学科の講義も履修でき、自然科学の基礎知識を一層広げることができます。
- （5）4年次には、さらに専門的な講義を実施するとともに、各研究室に配属されて、これまで3年間の蓄積を実際の研究現場で活用し、自主的な学習と研究による卒業研究に取り組みます。
- （6）各科目の学習成果は、定期試験、レポート、セミナー発表など、シラバスで定める方法により評価します。

これらのカリキュラムに適切に配置された科目を修得し、卒業研究に取り組むことにより、教育目標に掲げた資質・能力を兼ね備えた人材を育成します。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

自然界を貫く真理の探究に挑むため、総合的な基礎学力に加えて理学の諸分野における幅広い教養と深い知識を持ち、チャレンジ精神と知的好奇心に満ちあふれた、瑞々しい創造力をもつ人を求めています。

（2）選抜の基本方針

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験（日本語、理科、数学）および英語検定試験（TOEFL 又は IELTS）、提出書類によって総合的な基礎学力を測ります。また、面接により理学の諸分野における教養の幅広さと知識の深さ、チャレンジ精神と知的好奇心、日本語能力、表現力、説明力を測ります。

医学部（医学科）の教育を支える3つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）学位授与の方針および育成する人材像（教育目標）

名古屋大学医学部の理念に則り、以下のような資質・能力（学修成果）を身につけた人材を育成します。

- 1) 新しい医学・医療の開拓
豊かな想像力を発揮し、未知の領域に常に挑戦し続けながら、革新的な医学・医療を創造する研究者になるための基本的な姿勢を身につける
- 2) 異文化理解力と国際性
物事を多面的に捉え、多様であることを受容し、国際的な視点を持つ
- 3) 科学的かつ論理的な知識
臨床・研究の実践に必要な、科学的根拠に基づいた基礎・臨床・社会医学の知識を身につける
- 4) 飽くなき好奇心
知的好奇心に素直であり、新しいことを吸収する
- 5) 東海地域での基盤
愛知・岐阜・三重・静岡を中心とする東海地方を基盤とし、日本や世界の医療を担っていくという意識を持つ
- 6) プロフェッショナリズム
人の命に関わるという医師の職責を自覚し、豊かな人間性と高い倫理性を持つ
- 7) 患者中心で安全な医療
患者の苦痛や不安に寄り添い、心理・社会的背景を踏まえながら患者と共に意思決定を行い、安全で患者中心の医療を提供する医師になるための基本的な姿勢を身につける
- 8) 卓越した技術
己の持つ強みを生かして優れた技術を磨き、それを遺憾無く発揮するための基盤を作る
- 9) チームワーク
自分にできることとできないことを適切に判断し、高いコミュニケーション能力と協調性、およびリーダーシップを身につける
- 10) データ科学リテラシー
医学・医療に関わるデータを適切に分析・統合・評価できるための知識・技能を身につける

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

全学教育科目をはじめ、基礎医学、社会医学及び臨床医学からなる専門科目、臨床実習について所定の単位（全学教育科目 51 単位、基礎医学、社会医学及び臨床医学からなる専門科目 99 単位、臨床実習 63 単位の計 213 単位）以上を修得した者に対して、このような資質や能力が育成されたものと総合的に判断し、学士の学位を授けます。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成、教育内容および教育の実施方法に関する方針

- 1) 教養ある知識人を育成するために、全学教育として開講されている教養教育を縦断的カリキュラムとして編成します。
- 2) 論理的な科学者を養成するために、国際的に活躍する医学研究者が基礎医学・社会医学・臨床医学の講義・実習を行います。
- 3) 研究医を育成するために、半年間にわたる基礎医学セミナーをとおして所属研究室でリサーチマインドを養います。
- 4) 異文化理解力のある国際人を養成するために、世界最高の教育水準にある海外大学医学部との単位互換プログラムを実施します。
- 5) 倫理性や人間性を涵養するために、医学入門や社会医学の講義・実習、行動科学に関する授業や臨床実習を実施します。

- 6) 知的好奇心に溢れた医療人を育成するために、教育課程に PBL チュートリアルをはじめとするアクティブラーニングを組み入れます。
- 7) 臨床現場で実践的に働ける医療人を養成するために、模擬患者やシミュレーターなどによるシミュレーション教育を積極的に導入します。
- 8) 豊富な知識と優れた技術、そして患者中心の視点を持った臨床医を育成するために、名古屋大学医学部附属病院及び地域の連携病院での診療参加型臨床実習を充実化します。
- 9) 多職種と協働できる臨床医を養成するために、患者安全文化の浸透した名古屋大学医学部附属病院における臨床実習を行い、患者安全を考える機会を作ります。
- 10) 医学・医療に関連するデータを適切に分析・統合・評価できる能力を身につけるために、情報学やデータ科学に関する講義や実習を積極的に実施します。

学修成果を評価する方法に関する方針

- 1) 知識領域の評価については、筆記試験や多選択肢問題形式の試験（医療系大学間共用試験 CBT を含む）によって評価を行います。
- 2) 技能・態度領域の評価については、医療系大学間共用試験 OSCE などの実技試験を実施するほか、観察評価による評価も実施します。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

豊かな人間性、高い倫理性、科学的論理性を備え、創造力に富む医師・医学研究者へと成長するために必要な能力と資質を備えた学生を求めています。そのために、幅広い教養及び十分な基礎学力のみならず、知的好奇心や科学的探究心をもって新たな分野を開拓するような意欲を持ち、物事を多面的に捉え深い洞察力を持って発展させることができる思考力を有し、人間に対する共感や高い協調性といった医学に携わる者としての適性を兼ねそなえた入学者を選抜します。

（2）選抜の基本方針

私費外国人留学生入試

筆記試験では生命科学を中心とした基礎学力を評価します。面接試験では基礎学力に加えて、卒業時に医師国家試験に合格するに足る日本語能力を計るための選抜を実施しています。

医学部（保健学科）の教育を支える3つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

医学部保健学科は、以下に示す資質・能力等を備え、卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授与します。

「保健医療における専門的な知識や技能を有し、主体的な創造性および立ち向かう探求心を兼ね備える」

「科学的論理性、倫理性、人間性に富み、豊かな想像力と使命感を持って保健医療を推進することができる」

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

教育目標と基準に沿った資質・能力を満たした者に卒業を認め、学士の学位を授けます。卒業には、全学教育科目を36単位以上（全専攻共通）に加え全専攻とも卒業研究（4単位）を含み、看護学専攻91単位、放射線技術科学専攻98単位、検査技術科学専攻91単位、理学療法学専攻88単位、作業療法学専攻93単位以上の専門系科目を修得する必要があります。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

保健学科は「科学的論理性と倫理性・人間性に富み豊かな想像力・独創性と使命感をもって保健医療を推進する人の育成」を学部教育の基本方針としています。

将来の保健医療を担うリーダーとなりうる人材の育成をめざし、看護学・放射線技術科学・検査技術科学・理学療法学・作業療法学の5専攻を設けています。

医学部の教育目標を達成するために、以下のような教育課程を用意しています。

- 1) 1年次には、主として全学教育科目と専門（基礎）科目の一部を学びます。全学共通科目では、幅広い学問体系の知識を獲得し、総合的な分析・把握力・論理性に裏付けされた基礎的な主体性や探究心を、また豊かな人間性を育みます。また、専門基礎科目として、解剖学・生理学や生命倫理学などの5専攻共通基礎科目を通して専門技術に不可欠な保健医療の幅広い知識を習得し、科学的論理性や主体的な創造性の基礎を育成します。
- 2) 2年次以降は、各専門の段階的な講義・演習・実習の教育カリキュラムを設け、各領域の専門科目で高度な専門知識や技能の取得に加え、幅広い視野と高い倫理性を身につけます。
- 3) 3年次および4年次には、医療福祉機関や地域において臨地・臨床実習を行い、これまで習得した知識の実践的活用方法および保健医療の実際を学びます。また、使命感をもつ保健医療人の関わりから、保健医療への使命感や立ち向かう探究心を育成します。

あわせて、各研究室に配属のうえで卒業研究に取り組み、科学的論理性、豊かな想像力による問題発見・解決能力を身につけます。

学習成果の評価の方針

- 1) 「全学教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」「関連専門科目」では、レポート、筆記試験、目標への到達度など各授業において、シラバスで定める方法によって、単位認定を行います。
- 2) これらの適切に配置された科目を修得し、「臨地・臨床実習」および「卒業論文」に取り組むことによって、DP で掲げた資質・能力等を兼ね備えた人材を育成します。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

保健学科では、未来の「勇気ある知識人」を目指す人を国内外に求めます。保健学科の学術分野の特徴に基づき、基礎的な学力とそれを活用する能力、さらにそれを発展させようとする意欲や態度を適正に評価して選抜する入試を実施します。入学者が次のような資質を有することを期待します。

1. 生命への畏敬の念，弱者への思いやり
2. 科学的探究心と積極的意欲並びに行動力
3. 多様な価値観を受け入れる寛容さ
4. ボランティア精神とフロンティア精神
5. 穏やかな情緒と協調性

（2）選抜の基本方針

私費外国人留学生入試（保健学科放射線技術科学専攻を除く全専攻）

提出された出願書類により、保健学領域への意欲や基礎的な能力を評価します。また日本留学試験および TOEFL により、基本的な学力ならびに日本語の理解に加え、小論文と面接により、保健学分野への適性や積極性を評価し、これらを総合的に判断します。

私費外国人留学生入試（保健学科放射線技術科学専攻）

提出された出願書類により、保健学領域への意欲や基礎的な能力を評価します。また日本留学試験および TOEFL により、基本的な学力ならびに日本語の理解に加え、面接により、保健学分野への適性や積極性を評価し、これらを総合的に判断します。

工学部の教育を支える3つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

工学部は、以下に示す資質・能力等を備え、卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授与します。

工学部が授与する学位は、工学を拓くための専門領域の知識や技術を身につけるとともに、幅広い視野と応用力・思考力を有し、科学に対する強い興味をもって、豊かな未来社会の創出に貢献できる人材であることを証します。

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

各学科の教育課程に沿って、十分な教養と専門知識・技術を修得し、卒業判定に合格することが必要です。卒業要件単位数は、全学教育科目が45.5～49.5単位、専門系科目が卒業研究を含め84～89単位で、合計133～137単位です。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成及び教育・学修方法の方針

- （1）科学的な基礎知識と工学基礎を充実させます。
- （2）人文・社会科学等の関連する学問分野についての幅広い視野を確立させます。
- （3）基礎知識を柔軟に適用する豊かな応用力を養成します。
- （4）将来の創造性につながる基礎学力と技術・研究のあり方に対する基本的な素養を養成します。
- （5）十分な基礎知識を教授した後、多様な専門分野の選択肢を提供し、必要な専門性を養います（Late Specialization）。

これらの教育方針にそって、全学教育科目の基礎のもと、学科ごとに教育プログラムを編成しています。専門系科目を専門基礎科目、専門科目、関連専門科目に区分し、それぞれの科目区分の中に、講義、演習、実習、実験などの多様な形態の授業を配置し、学年進行にそって、基礎力、応用力、創造力・総合力が段階的に涵養されるよう配慮しています。

学部教育カリキュラムは卒業後、大学院に進学しさらに高度な学問分野の修得と研究を行う学生のために必要な基本的な内容を網羅するとともに、大学院の教育カリキュラムとの密接な関係をもつように配慮しています（3+3+3型教育システム）。

学修成果の評価の方針

- （1）「全学教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」「関連専門科目」では、レポート、筆記試験、口頭発表など各授業において、シラバスで定める方法によって、単位認定を行います。
- （2）これらの適切に配置された科目を修得し、「卒業研究」に取り組むことによって、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた資質・能力等を兼ね備えた人材を育成します。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

自然科学に対する強い興味と、人間や社会に対する幅広い関心を持ち、工学を学ぶための基礎学力と素養をもった意欲のある人を求めています。

（2）選抜の基本方針

私費外国人留学生入試

入学者受入れの方針にしたがって、特に、工学を学ぶための基礎学力と素養をもった意欲のある人材を選抜します。具体的には、語学力（日本語および英語能力の外部スコア）の評価に加えて、各学科において実施する個別学力検査により、基礎的な学力を評価し、選抜します。

農学部を教育を支える3つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

農学部は、以下に示す資質・能力等を備え、卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学位を授与します。

「農学領域における科学的知識と基礎的技術および豊かな教養を有し、自発的、継続的に学ぶことができる」

「生物に対する深い理解と論理的思考力に裏付けられた総合的判断力をもって、将来を切り拓いていくことができる」

（2）卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）

全学教育科目、学部専門基礎科目、卒業論文研究を含む学部専門科目について所定の単位を修得した者に対して、農学の学術分野における資質や能力が育成されたものと総合的に判断し、学士の学位を授けます。卒業に必要な単位数は、全学教育科目 49 単位、専門基礎科目 42 単位、専門科目 45 単位の計 136 単位です。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

農学部は、食・環境・健康に関して多様な視点から問題を発見・解決できる力を養うとともに、大学院教育との連携や社会からの要請に応えるために、以下の教育プログラムを実施しています。

(1) 基礎学力の養成：1・2 年次では、あらゆる学問分野の基礎となる全学教育科目を履修して、基礎学力を養成します。

(2) 農学領域における基礎知識と関連する技術の習得：1・2 年次では、3 学科に共通して必要な生物系・化学系・数物系の基礎科目、“食・環境・健康”に関わる課題認識のための基礎科目「生命農学序説」、情報教育科目「情報リテラシー入門」などを履修して、基礎知識を習得します。

(3) 自発的、継続的に学ぶ能力の習得：科学・技術・社会に対する視野を広げるとともに、今後の学修の方向性や取り組み方を考えます（「生命農学序説」「生命と技術の倫理」など）。また、科学英語の読解能力、プレゼンテーション能力、課題解決能力の向上を目指します（「農学セミナー」など）。

(4) 課題を見出し、学んだ知識や技術を応用して解決する能力の習得：3・4 年次では、様々な学問領域につながる専門科目の講義と実験実習、また専門横断的科目（「フードシステム論」など）や各種資格の取得に必要な科目を履修し、生物のもつ機能の多面的な利用と技術開発に関する方法論や専門知識を学びます。

(5) グローバルな視野をもって行動し、社会に貢献できる人材の養成：各学科の実習、研修、講義を通じて農学領域における国内外の諸問題を発見・解析・探求する能力を養います（「海外実地研修」など）。

(6) 卒業論文研究：4 年次を各専門分野に対応した専門教育の期間と位置付け、学生が研究室に所属して、学生が主体となって卒業研究に取り組み、最先端研究の一端を担うことで、高度な専門知識と課題解決方法を習得します。

(1)～(4)の「全学教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」「関連専門科目」では、主に定期試験やレポート課題で評価します。

(5)グローバルな視野をもって行動し、社会に貢献できる人材を養成する科目では、主に口頭発表や平常点で評価します。

各科目の学習成果は、全学統一の成績評価基準に準拠して評価し、シラバスで定める方法によって、単位認定を行います。

これらの適切に配置された科目を修得し、「卒業論文」に取り組むことによって、ディプロマ・ポリシーで掲げた資質・能力等を兼ね備えた人材を育成します。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（１）入学者受入れの方針

「食・環境・健康」に関わる学問を探究するために必要な基礎的学力を有し、それぞれの専門分野で指導者や専門家として知識と技術を社会に役立てようという志をもつ人材を求めています。

（２）選抜の基本方針

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生選抜においては、日本留学試験の成績、TOEFL の成績、提出書類、小論文および口頭試問を含む面接での評点をもとに総合的に評価します。志望学科に対する明瞭な志向と将来を見据えた明確な勉学目的をもち、学習成績・人物ともに優れた人を選抜します。

令和4年度名古屋大学私費外国人留学生募集要項

私費外国人留学生として本学への入学を志願する者に対して、大学入学共通テストを免除し、一般の入学試験とは別に入学試験を実施します。

I 出願資格及び要件

本学の私費外国人留学生入試に出願することができる者は、次の1の出願資格を有し、かつ、2の要件を満たす者とします。

1. 出願資格

次の(1)及び(2)に該当する者

(1) 日本国籍を有しない者（日本国永住許可を得ている者を除く。）

(2) 次のいずれかに該当する者

ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び令和4年（2022年）3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

イ スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者

ウ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者

エ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者

オ グレートブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格（GCE Aレベル資格）を有する者で、各学部・学科が指定する科目数、科目の種類及び評価を満たすもの

学部（学科）	科目数 (Aレベル試験)	指定科目	評価
・文学部	1科目以上	なし	合格（E評価以上）
・教育学部	3科目以上	なし	合格（E評価以上）
・法学部	3科目以上	なし	合格（E評価以上）
・経済学部	3科目以上	なし	合格（E評価以上）
・情報学部	1科目以上	なし	合格（E評価以上）
・理学部	3科目以上	数学及び理科に関する科目（物理、化学、生物、地学のうちからいずれか2科目）の計3科目を含むこと。	合格（E評価以上）
・医学部（医学科）	3科目以上	なし	合格（E評価以上）
・医学部（保健学科）	3科目以上	なし	合格（E評価以上）
・工学部	3科目以上	なし	合格（E評価以上）
・農学部	2科目以上	物理、化学、生物のうちからいずれか2科目を含むこと。	合格（E評価以上）

カ 文部科学大臣が指定する国際的な評価団体（WASC, ACSI, CIS）から教育活動等に係る認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程を修了した者

キ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業したものと同等以上の学力があると認めた者で、令和4年（2022年）3月31日までに18歳に達するもの

【注】(1) 上記出願資格の「外国において、学校教育における12年の課程」には、日本の教育課程による期間も含まれますが、高等学校又は高等学校に対応する学校の課程を卒業（修了）した者及び令和4年（2022年）3月31日までに卒業（修了）する見込みの者は、出願が認められません。なお、不明な点は本学教育推進部入試課まで照会してください。

(2) 上記「ア」の「これに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの」は次のものが含まれます。

- 一 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者と同等の学力があるかどうかに関する認定試験であると認められる当該国の検定（国の検定に準ずるものを含む。次号において同じ。）に合格した者で、令和4年（2022年）3月31日までに18歳に達するもの
- 二 外国において、高等学校に対応する学校の課程を修了した者（これと同等以上の学力があるかどうかに関する認定試験であると認められる当該国の検定に合格した者を含む。）で、文部科学大臣が別に定めるところにより指定した我が国の大学に入学するための準備教育を行う課程（別表1[※]）又は（別表2[※]）上欄及び中欄に掲げる施設における研修並びに同表の下欄に掲げる施設における我が国の大学に入学するために必要な教科に係る教育をもって編成される当該課程等を修了したもの
- 三 外国において、高等学校に対応する学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における11年以上の課程を修了したとされるものであることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを修了した者
- 四 我が国において、高等学校に対応する外国の学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における12年の課程を修了したとされるものに限る。）と同等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた（別表3[※]）に掲げる教育施設の当該課程を修了した者
- 五 我が国において、高等学校に対応する外国の学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における12年の課程を修了したとされるものを除く。）と同等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた（別表4[※]）に掲げる教育施設の当該課程を修了した者で、第二号の準備教育を行う課程を修了したもの

※別表1～別表4については、22頁～26頁を参照してください。

- (3) 上記「キ」により出願する者は、個別の入学資格審査が必要となりますので、下記の期間に申請してください。なお、審査対象、申請手続等の詳細については、本学ホームページ (<https://www.nagoya-u.ac.jp/>) で確認してください。

申請期間 令和3年10月1日（金）～10月29日（金）[必着]

2. 要件

次の(1)及び(2)を満たす者

- (1) 独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の科目のうち本学が指定した下記の科目を受験し、下記の要件にある得点を取得した者。なお、2021年度日本留学試験（第1回）の日本国外での実施が中止になったことから、2021年度の成績に加え、2020年度の成績も下記要件の対象とする。

学部（学科）	受 験 科 目	要 件
・文学部・教育学部 ・法学部・経済学部	日本語、総合科目、数学コース1	日本語（読解、聴解、聴読解）：220点以上 総合科目・数学コース1：265点以上
・情報学部 （人間・社会情報学科）	日本語、総合科目、数学コース1	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：300点以上 総合科目・数学コース1：265点以上
・情報学部 （自然情報学科）	日本語、理科（物理、化学、生物から2科目選択）、数学コース2	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：300点以上 理科・数学コース2：265点以上
・情報学部 （コンピュータ科学科）	日本語、理科（物理1科目及び「化学、生物」から1科目選択の合計2科目）、数学コース2	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：300点以上 理科・数学コース2：265点以上
・理学部	日本語、理科（物理、化学、生物から2科目選択）、数学コース2	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：330点以上 理科・数学コース2：310点以上
・医学部（医学科）	日本語、理科（物理、化学、生物から2科目選択）、数学コース2	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：360点以上 理科・数学コース2：320点以上
・医学部（保健学科）	日本語、理科（物理、化学、生物から2科目選択）、数学コース2	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：300点以上 理科・数学コース2：265点以上
・工学部	日本語、理科（物理、化学）、数学コース2	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：300点以上 理科・数学コース2：265点以上
・農学部	日本語、理科（物理、化学、生物から2科目選択）、数学コース2	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：300点以上 理科・数学コース2：300点以上

【注】受験科目の出題言語は、日本語を選択し受験してください。

- (2) TOEFL 又は IELTS (Academic Module) を出願前2年以内に受験し、下記の学部(学科)が指定したいいずれかの得点を取得した者

学部(学科)	要件
・文学部	TOEFL-iBT 61点以上 IELTS 5.5以上
・教育学部 ・情報学部 ・医学部(保健学科)	TOEFL-iBT 61点以上
・法学部	TOEFL-iBT 61点以上 IELTS 5.5以上
・経済学部 ・工学部	TOEFL-iBT 71点以上
・理学部	TOEFL-iBT 71点以上 改訂版TOEFLペーパー版テスト53点以上 IELTS 6.0以上
・医学部(医学科)	TOEFL-iBT 90点以上
・農学部	TOEFL-iBT 61点以上 改訂版TOEFLペーパー版テスト46点以上

【注】(1) TOEFL を受験する場合

- ・「Institutional Score Report (又は Official Score Report)」を主催団体の ETS (Educational Testing Service) から本学へ送付する手続きを必ず行ってください。
- ・出願期間直前の10月・11月は、ETSに「Institutional Score Report (又は Official Score Report)」の発行手続きをしても、本学に届くまで2ヶ月以上の時間がかかる場合があるため、遅くとも出願の2ヶ月以上前までに、受験のうえ発行手続きを行ってください。
- ・ETSからの「Institutional Score Report (又は Official Score Report)」が本学の出願期間最終日までに届かない場合は、書類不備のため出願を受け付けません。
- ・本学の TOEFL における DI コード (Designated Institution Code) は「0312」です。また、TOEFL-ITP のスコアは利用できません。
- ・工学部及び農学部を除き「My Best スコア」を利用します。
- ・「TOEFL iBT Home Edition」テストスコアを TOEFL iBT テストスコアと同様に取り扱います。

(2) IELTS (Academic Module) を受験する場合

- ・成績証明書 (Test Report Form) の原本をテスト実施機関から大学へ送付する手続きを必ず行ってください。なお、成績証明書 (Test Report Form) が出願期間最終日までに届かない場合は、書類不備のため出願を受け付けできません。また、テスト実施機関から送付される電子証明書は無効です。

* 「日本留学試験」についての照会先

独立行政法人日本学生支援機構 留学生事業部留学試験課
〒153-8503 東京都目黒区駒場4丁目5番29号
TEL: (03)6407-7457

* 「TOEFL」についての照会先

ETS Customer Support Center in Japan
TEL: (0120)981-925

* 「IELTS」についての照会先

公益財団法人 日本英語検定協会
TEL: (03)3266-6852

(別表1) 文部科学大臣指定準備教育課程一覧

※掲載されている情報は令和元年8月22日現在のものです。以降の更新情報については、文部科学省のホームページでご確認ください。

準備教育課程の名称	位置	備考
東京外国語大学留学生日本語教育センター学部留学生準備教育課程	東京都府中市	
大阪外国語大学留学生日本語教育センター学部留学生準備教育課程	大阪府箕面市	平成十二年四月一日以降、平成十八年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
大阪外国語大学日本語日本文化教育センター学部留学生準備教育課程	大阪府箕面市	平成十八年四月一日以降、平成十九年九月三十日までに当該課程に入学した者に限る。
大阪大学日本語日本文化教育センター学部留学生準備教育課程	大阪府箕面市	
拓殖大学言語文化研究所附属日本語研修センター準備教育課程	東京都文京区	平成十二年四月一日以降、平成十五年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
拓殖大学日本語学校準備教育課程	東京都文京区	平成十五年四月一日以降、平成十九年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
京都コンピュータ学院鴨川校京都日本語研修センター進学準備1年コース及び進学準備1年半コース	京都府京都市	
大阪YMCA学院日本語学科1年コース、日本語学科1年半コース及び日本語学科2年コース	大阪府大阪市	平成十八年四月一日以降、平成二十一年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
大阪YMCA学院総合日本語1年コース、総合日本語1年半コース及び総合日本語2年コース	大阪府大阪市	
環球日本語学習院日本語科進学準備2年コース	宮城県仙台市	平成二十三年四月一日以降、平成二十六年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
環球日本語学習院進学特別課程二年コース及び進学特別課程一年半コース	宮城県仙台市	
セントメリー日本語学院準備教育課程Aコース及び準備教育課程Bコース	栃木県宇都宮市	
学校法人三井学園武蔵浦和日本語学院進学準備1年課程及び進学準備1年半課程	埼玉県さいたま市	平成十六年四月一日以降、平成十九年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
学校法人三井学園武蔵浦和日本語学院進学準備2年課程及び進学準備1年半課程	埼玉県さいたま市	平成十九年四月一日以降、平成二十二年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
学校法人三井学園武蔵浦和日本語学院進学準備課程2年コース及び進学準備課程1年6か月コース	埼玉県さいたま市	
ARC東京日本語学校準備教育課程2年コース及び準備教育課程1年6か月コース	東京都文京区	
大原日本語学院準備教育課程1年コース及び準備教育課程1年半コース	東京都千代田区	
学校法人新井学園赤門会日本語学校本校大学進学のための準備教育2年コース及び大学進学のための準備教育1.5年コース	東京都荒川区	
カルチャー・アンド・ランゲージ・センター日本語学校日本語学科1、日本語学科2及び日本語学科3	東京都新宿区	平成十三年四月一日以降、平成十五年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
KCP地球市民日本語学校特別進学課程1年半コース及び特別進学課程2年コース	東京都新宿区	
国際学友会日本語学校進学課程1年コース及び進学課程1年半コース	東京都新宿区	平成十二年四月一日以降、平成十六年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
日本学生支援機構東京日本語教育センター進学課程1年コース及び進学課程1年半コース	東京都新宿区	
財団法人言語文化研究所附属東京日本語学校進学科1年コース、進学科1年半コース及び進学科2年コース	東京都渋谷区	平成十二年四月一日以降、平成二十一年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
学校法人長沼スクール東京日本語学校進学科1年コース、進学科1年半コース及び進学科2年コース	東京都渋谷区	
淑徳日本語学校大学進学課程A及び大学進学課程B	東京都板橋区	
新宿日本語学校日本語学科1、日本語学科2及び日本語学科3	東京都新宿区	
ジェット日本語学校日本語進学科A及び日本語進学科B	東京都北区	
千駄ヶ谷日本語学校日本語学科I部準備教育課程2年コース、日本語学科I部準備教育課程1年6ヶ月コース、日本語学科II部準備教育課程2年コース及び日本語学科II部準備教育課程1年6ヶ月コース	東京都豊島区	平成十八年四月一日以降、平成二十二年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。

千駄ヶ谷日本語学校日本語学科Ⅰ部準備教育課程1年6ヶ月コース、日本語学科Ⅰ部準備教育課程2年コース、日本語学科Ⅱ部準備教育課程1年6ヶ月コース及び日本語学科Ⅱ部準備教育課程2年コース	東京都 新宿区	
東京工科大学附属日本語学校大学準備教育2年コース	東京都 大田区	平成二十二年四月一日以降、平成二十三年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
東京国際大学付属日本語学校準備教育課程A学科及び準備教育課程B学科	東京都 新宿区	
東京国際大学付属日本語学校準備教育課程4月コース及び準備教育課程10月コース	東京都 新宿区	
メロス言語学院日本語総合準備教育2年課程、日本語総合準備教育1年6ヶ月課程及び日本語総合準備教育1年課程	東京都 豊島区	
山野日本語学校大学進学予備教育1年コース及び大学進学予備教育1年半コース	東京都 渋谷区	平成十二年四月一日以降、平成十五年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
山野日本語学校大学進学準備教育1年コース及び大学進学準備教育1年半コース	東京都 渋谷区	
国際ことば学院大学進学コース	静岡県 静岡市	平成十四年四月一日以降、平成二十年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
国際ことば学院日本語学校大学進学コース	静岡県 静岡市	
静岡日本語教育センター進学特別課程	静岡県 静岡市	
学校法人育英館関西言語学院進学準備教育1年半コース及び進学準備教育1年コース	京都府 京都市	
関西国際学会友会日本語学校本科課程1年コース及び本科課程1年半コース	大阪府 大阪市	平成十二年四月一日以降、平成十六年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
日本学生支援機構大阪日本語教育センター本科課程1年コース及び本科課程1年半コース	大阪府 大阪市	平成十六年四月一日以降、平成二十年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
日本学生支援機構大阪日本語教育センター進学課程1年コース及び進学課程1年半コース	大阪府 大阪市	
英数学館岡山校日本語科大学進学準備1年半コース	岡山県 岡山市	平成十四年四月一日以降、平成二十年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
九州英数学館国際言語学院日本語科大学進学準備コース	福岡県 福岡市	平成十二年四月一日以降、平成十三年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
九州英数学館国際言語学院日本語科大学進学準備1.5年コース及び日本語科大学進学準備2年コース	福岡県 福岡市	
財団法人アジア学生文化協会留学生日本語コース大学進学準備1年課程及び留学生日本語コース大学進学準備1.5年課程	東京都 文京区	平成十二年四月一日以降、平成二十六年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
公益財団法人アジア学生文化協会留学生日本語コース大学進学準備1年課程及び留学生日本語コース大学進学準備1.5年課程	東京都 文京区	
東京ギャラクシー日本語学校準備教育課程2年コース、準備教育課程1年6ヶ月コース及び準備教育課程1年6か月コース	東京都 中央区	準備教育課程1年6ヶ月コースについて、平成二十八年四月一日以降、平成二十九年三月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。準備教育課程1年6か月コースは平成二十九年四月一日以降に当該課程に入学した者に適用される。
帝京マレーシア日本語学院日本留学準備教育課程15か月コース、日本留学準備教育課程18か月コース及び日本留学準備教育課程20か月コース	マレーシア クアラルンプール	平成十六年四月一日以降、平成十八年十二月三十一日までに当該課程に入学した者に限る。
帝京マレーシア日本語学院日本留学準備教育課程12か月コース、日本留学準備教育課程18か月コース及び日本留学準備教育課程20か月コース	マレーシア クアラルンプール	

・このほか、中国赴日本国留学生予備学校（中華人民共和国吉林省）があります。

(別表2) 文部科学大臣指定研修施設一覧

※掲載されている情報は平成22年4月1日現在のものです。以降の更新情報については、文部科学省のホームページでご確認ください。

上 欄	中国帰国者定着促進センター（埼玉県）、大阪中国帰国者定着促進センター、福岡中国帰国者定着促進センター
中 欄	北海道、山形県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、長野県、愛知県、京都府、大阪府、広島県、福岡県の各中国帰国者自立研修センター
下 欄	埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、長野県、愛知県、京都府、大阪府、広島県、福岡県の各中国帰国者自立研修センター

(別表3) 我が国において、高等学校相当として指定した外国人学校一覧(12年以上の課程)

※掲載されている情報は令和2年9月30日現在のものです。以降の更新情報については、文部科学省のホームページでご確認ください。

学 校 名	所在する都道府県	備 考
インスチット・エドゥカレ(名称変更前のエスコラ・ピ ンゴ・デ・ジェンテを含む。)	茨城県	平成18年2月6日以降に当該課程を修了した 者に限る。
エスコラ・エ・クレシェ・ド・グルーボ・オピソン	茨城県	
インスチット・エドカシヨナル・ジェンテ・ミウダ	群馬県	
インスチット・エドカシヨナル・セントロ・ニッポ・ブラ ジレイロ・デ・オイズミ	群馬県	
エスコラ・パラレロ各種学校(名称変更前のエスコラ・ パラレロ 太田校を含む。)	群馬県	
伯人学校イーエーエス太田(名称変更前のコレジオ・ピタ ゴラス・ブラジル 太田校を含む。)	群馬県	
エスコラ・インテルクートウラウ・ユニフィカーダ・アル コ・イリス	埼玉県	
各種学校インスチット エドゥカシオナル ティー・エス レクレーソン	埼玉県	平成26年12月8日以降に当該課程を修了した 者に限る。
コロンビア・インターナショナルスクール	埼玉県	
インディア・インターナショナル・スクール・イン・ジャパン	東京都	平成23年4月1日以降に当該課程を修了した 者に限る。
インドネシア学校東京	東京都	
カナディアン・インターナショナルスクール	東京都	
グローバルインディアンインターナショナルスクールジャパン	東京都	平成24年4月1日以降に当該課程を修了した 者に限る。
東京韓国学校中・高等部(名称変更前の東京韓国学校を含む。)	東京都	
東京国際フランス学園(名称変更前のリセ・フランコ・ジャ ポネ・ド・トウキョウ及びリセ・フランコ・ジャポネ・ド・ 東京 柳北校を含む。)	東京都	
東京中華学校	東京都	
東京横浜独逸学園	神奈川県	
横浜中華学院	神奈川県	
アルプス学園(名称変更前のコレジオ・ピタゴラス・ブラ ジル 山梨校を含む。)	山梨県	平成18年2月6日以降に当該課程を修了した 者に限る。
コレジオ・エ・クレシェ・サウ・エ・ルス	長野県	
長野日伯学園(名称変更前のコレジオ・ピタゴラス・ブラ ジル 長野校を含む。)	長野県	
コレジオ・イザキ・ニュートン	岐阜県	
セントロ・エドカシヨナル・ノヴァ・エターバ	岐阜県	平成18年2月6日以降に当該課程を修了した 者に限る。
ソシエダーデ・エドカシヨナル・ブラジリアン・スクール	岐阜県	
HIRO 学園 エスコラ ブラジレイラ プロフェソール カワセ(名称変更前のエスコラ・ブラジレイラ・プロフェ ソール・カワセを含む。)	岐阜県	
エスコラ・アウカンセ	静岡県	
エスコラ・ノヴァ・エラ	静岡県	
エスコラ・ブラジル(名称変更前のエスコラ・ブラジレ イラ・デ・ハママツを含む。)	静岡県	平成18年2月6日以降に当該課程を修了した 者に限る。
セントロ・エドカシヨナル・イ・プロフィシオナリザンチ CEP ブラジル	静岡県	
伯人学校イーエーエス浜松(名称変更前のエスコラ・アレ グリア・デ・サベール 浜松校を含む。)	静岡県	平成18年2月6日以降に当該課程を修了した 者に限る。
ムンド・デ・アレグリア学校(ブラジル課程に限る。)	静岡県	平成25年1月31日以降に当該課程を修了した 者に限る。
エスコラ・サンパウロ	愛知県	平成18年2月6日以降に当該課程を修了した 者に限る。
エスコラ・ネクター	愛知県	
コレジオ・ブラジル-ジャポン・プロフェソール・シノダ	愛知県	

伯人学校イーエーエス豊田（名称変更前のエスコラ・アレグリア・デ・サベール 豊田校を含む。）	愛知県	平成18年2月6日以降に当該課程を修了した者に限る。
伯人学校イーエーエス豊橋（名称変更前のエスコラ・アレグリア・デ・サベール 豊橋校を含む。）	愛知県	
伯人学校イーエーエス碧南（名称変更前のエスコラ・アレグリア・デ・サベール 碧南校を含む。）	愛知県	
ニッケン学園	三重県	
伯人学校イーエーエス鈴鹿（名称変更前のエスコラ・アレグリア・デ・サベール 鈴鹿校を含む。）	三重県	平成18年2月6日以降に当該課程を修了した者に限る。
日本ラチーノ学院（名称変更前のコレージョ・ラティーノ・デ・シガを含む。）	滋賀県	
コレージョ・ピタゴラス・ブラジル 真岡校	栃木県	平成18年2月6日から平成21年12月31日までの間に当該課程を修了した者に限る。
エスコラ・パラレロ 伊勢崎校	群馬県	平成18年2月6日から平成21年3月31日までの間に当該課程を修了した者に限る。
セントロ・エドカシヨナル・カナリーニョ	埼玉県	平成18年2月6日から平成21年3月31日までの間に当該課程を修了した者に限る。
セントロ・デ・アプレンジザージェン・ロゴス	埼玉県	平成18年2月6日から平成22年4月1日までの間に当該課程を修了した者に限る。
エスコラ・パラレロ 伊那校	長野県	平成18年2月6日から平成18年12月31日までの間に当該課程を修了した者に限る。
セントロ・エドカシヨナル・ノヴォ・ダマスコ	長野県	平成24年3月14日までに当該課程を修了した者に限る。
インスチトゥート・エドカシヨナル・エマヌエウ	岐阜県	平成18年2月6日から平成19年9月14日までの間に当該課程を修了した者に限る。
エスコラ・ウノ・デ・エデュカソン・インファンチウ・エンシーノ・フンダメンタウ・エ・エンシーノ・メディオ	静岡県	平成18年2月6日から平成19年10月31日までの間に当該課程を修了した者に限る。
エスコラ・ニッポ・ブラジレイラ	静岡県	平成18年2月6日から平成21年10月5日までの間に当該課程を修了した者に限る。
コレージョ・ピタゴラス・ブラジル 浜松校	静岡県	平成18年2月6日から平成24年5月8日までの間に当該課程を修了した者に限る。
コレージョ・アウレオ	愛知県	平成18年2月6日から平成22年5月15日までの間に当該課程を修了した者に限る。
コレージョ・ドン・ボスコ	愛知県	平成18年2月6日から平成23年3月11日までの間に当該課程を修了した者に限る。
コレージョ・ピタゴラス・ブラジル 愛知校	愛知県	平成18年2月6日から平成24年5月8日までの間に当該課程を修了した者に限る。
京都韓国中学	京都府	平成18年3月31日までに当該課程を修了した者に限る。

(別表4) 我が国において、高等学校相当として指定した外国人学校一覧(12年未満の課程)

※掲載されている情報は令和2年9月30日現在のものです。以降の更新情報については、文部科学省のホームページでご確認ください。

学 校 名	所在する都道府県	備 考
ムンド・デ・アレグリア学校(ペルー課程に限る。)	静岡県	平成18年2月5日までに当該課程を修了した者に限る。
エスコーラ・エ・クレシェ・ド・グルーポ・オピソン	茨城県	
エスコーラ・ピング・デ・ジェンテ	茨城県	
コレージョ・ピタゴラス・ブラジル 真岡校	栃木県	
インスチトゥート・エドカシヨナル・ジェンテ・ミウダ	群馬県	
インスチトゥート・エドカシヨナル・セントロ・ニッポ・ブラジレイロ・デ・オイズミ	群馬県	
エスコーラ・パラレロ 伊勢崎校(名称変更前のエスコーラ・パラレロ 東村校を含む。)	群馬県	
エスコーラ・パラレロ 太田校	群馬県	
コレージョ・ピタゴラス・ブラジル 太田校	群馬県	
セントロ・エドカシヨナル・カナリーニョ	埼玉県	
セントロ・デ・アプレンジザージェン・ロゴス	埼玉県	
コレージョ・ピタゴラス・ブラジル 山梨校	山梨県	
エスコーラ・パラレロ 伊那校	長野県	
コレージョ・エ・クレシェ・サウ・エ・ルス	長野県	
コレージョ・ピタゴラス・ブラジル 長野校	長野県	
インスチトゥート・エドカシヨナル・エマヌエウ	岐阜県	
エスコーラ・ブラジレイラ・プロフェソール・カワセ	岐阜県	
セントロ・エドカシヨナル・ノヴァ・エターバ	岐阜県	
ソシエダーデ・エドカシヨナル・ブラジリアン・スクール	岐阜県	
エスコーラ・アレグリア・デ・サベール 浜松校	静岡県	
エスコーラ・ウノ・デ・エデュカソン・インファンチウ・エンシーノ・フンダメンタウ・エ・エンシーノ・メディオ	静岡県	
エスコーラ・ニッポ・ブラジレイラ	静岡県	
エスコーラ・ブラジレイラ・デ・ハママツ	静岡県	
コレージョ・ピタゴラス・ブラジル 浜松校	静岡県	
エスコーラ・アレグリア・デ・サベール 豊田校	愛知県	
エスコーラ・アレグリア・デ・サベール 豊橋校	愛知県	
エスコーラ・アレグリア・デ・サベール 碧南校	愛知県	
エスコーラ・サンパウロ	愛知県	
エスコーラ・ネクター	愛知県	
コレージョ・アウレオ	愛知県	
コレージョ・ドン・ボスコ	愛知県	
コレージョ・ピタゴラス・ブラジル 愛知校(名称変更前のコレージョ・ピタゴラス・ブラジル 半田校を含む。)	愛知県	
エスコーラ・アレグリア・デ・サベール 鈴鹿校	三重県	
コレージョ・ラティーノ・デ・シガ	滋賀県	

Ⅱ 募 集 人 員

募集人員は、下記のとおりです。

情報学部、理学部、医学部、工学部及び農学部については学科・専攻別により募集します。

学 部 ・ 学 科 等		募 集 人 員	
文 学 部		若 干 名	
教 育 学 部		若 干 名	
法 学 部		若 干 名	
経 済 学 部		若 干 名	
情 報 学 部	自 然 情 報 学 科	若 干 名	
	人 間 ・ 社 会 情 報 学 科	若 干 名	
	コ ン プ ュ ー タ 学 科	若 干 名	
理 学 部	数 理 学 科	若 干 名	
	物 理 学 科	若 干 名	
	化 学 科	若 干 名	
	生 命 理 学 科	若 干 名	
	地 球 惑 星 学 科	若 干 名	
医 学 部	医 学 科	若 干 名	
	保 健 学 科	看 護 学 専 攻	若 干 名
		放 射 線 技 術 学 科 専 攻	若 干 名
		検 査 技 術 学 科 専 攻	若 干 名
		理 学 療 法 学 科 専 攻	若 干 名
		作 業 療 法 学 科 専 攻	若 干 名
工 学 部	化 学 生 命 工 学 科	若 干 名	
	物 理 工 学 科	若 干 名	
	マ テ リ ア ル 工 学 科	若 干 名	
	電 気 電 子 情 報 工 学 科	若 干 名	
	機 械 ・ 航 空 宇 宙 工 学 科	若 干 名	
	エ ネ ル ギ ー 理 工 学 科	若 干 名	
	環 境 土 木 ・ 建 築 学 科	若 干 名	
農 学 部	生 物 環 境 学 科	若 干 名	
	資 源 生 物 学 科	若 干 名	
	応 用 生 命 学 科	若 干 名	

Ⅲ 選 抜 方 法

入学者の選抜は、「日本留学試験」、TOEFL 又は IELTS、及び本学が実施する入学試験（学部・学科ごとに異なる。）の成績並びに出願書類により総合的に行います。

なお、私費外国人留学生入試については、追試験は実施しません。

1. 試験期日、試験科目及び試験時間等

試験日	学部（学科）	試験科目・試験時間	試験会場	集合時間・場所 ※1	
令和4年 2月1日(火)	文 学 部	面接（オンライン） ※2	————		
	教 育 学 部	面接（オンライン） ※2	————		
	法 学 部	面接（オンライン） ※2	————	面接予備日 2月3日（木）	
	経 済 学 部	面接（オンライン） ※2	————		
	情 報 学 部	面接（オンライン） ※2	————		
	理 学 部	面接（オンライン） 14時00分～	————	※3	
	医学部医学科	筆記試験 14時00分～ 15時00分 面接 15時15分～	医 学 部 医 学 科	13時30分 医学部基礎研究棟1階会議室1 （学務課前）に集合 〔鶴舞地区試験場配置図参照〕	
	工 学 部	化 学 生 命 工 学 科	小 論 文 10時00分～ 11時00分 面 接 13時00分～	王 学 部	物理工学科の面接は、基礎科目 （物理・数学）の内容を含む。 9時20分 IB電子情報館015講義室〔東山 地区試験場配置図：C-3〕に集合
		物 理 工 学 科 ※4	小 論 文 10時00分～ 10時50分 基礎科目 11時00分～ 12時00分 面 接 13時00分～		
		マテリアル 工 学 科	小 論 文 10時00分～ 11時00分 面 接 13時00分～ 10時00分～		
		電 気 電 子 情 報 工 学 科	小 論 文 10時00分～ 10時50分 面 接 14時00分～		
		機 械 ・ 航 空 宇 宙 工 学 科	小 論 文 10時00分～ 11時00分 面 接 13時00分～		
		エ ネ ル ギ ー 理 工 学 科	小 論 文 10時00分～ 11時00分 面 接 13時00分～		
環 境 土 木 ・ 建 築 学 科		小 論 文 10時00分～ 11時00分 面 接 13時00分～ 10時00分～			
農 学 部	面接（オンライン） ※2	————			

工学部は、全学科でオンラインでの選抜に変更します。 [令和3年12月21日更新]

また、一部の学科で試験科目・試験時間等の変更がありますので注意してください。

詳細は、「令和4年度私費外国人留学生入試における新型コロナウイルス感染症に対する水際措置の強化に伴う入学志願者への配慮について」で必ず確認してください。

<https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/exam/us-exam/cat2/index.html>

試験日	学部（学科）	試験科目・試験時間	試験会場	集合時間・場所 ※1
令和4年 2月2日(水)	医学部 保健学科	看護学専攻	小論文 10時00分～11時30分 面接 12時00分～	9時30分 医学部大幸地区事務統括室大幸 教務学生係に集合 [大幸地区試験場配置図参照]
		検査技術 科学専攻		
		理学療法 学専攻		
		作業療法 学専攻		
		放射線技術 科学専攻	面接 10時00分～	

※1 各学部（学科）の集合場所は、42頁、43頁の配置図で確認してください。

※2 文学部、教育学部、法学部、経済学部、情報学部及び農学部の選抜は、第1次選考と第2次選考により行います。

第1次選考は、出願書類により総合的に選考し、第1次選考の合格者（面接受験者）を決定します。第2次選考は第1次選考の合格者に対し、オンラインでの面接を実施します。面接の試験時間等については、第1次選考の合格者に別途通知します。

第1次選考の結果は、令和4年1月21日（金）16時に本学ホームページにより発表しますので、必ず確認するようにしてください。

※3 理学部は、学科別でオンラインでの面接を実施します。詳細な試験時間等については、別途通知します。

※4 工学部物理工学科は、今後の状況によりオンラインでの選抜を行う可能性があります。

2. 実施方法及び出題範囲

学部・学科等		試験科目		出題範囲等	
文学部		面	接	日本語で実施	
教育学部		面	接	日本語で実施	
法学部		面	接	日本語で実施	
経済学部		面	接	日本語で実施	
情報学部		面	接	日本語で実施（人間・社会情報学科は、「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B」に関する口頭試問を含む。）	
理学部	数理学科	面	接	日本語で実施（数学に関する口頭試問を含む。）	
	物理学科	面	接	日本語で実施（数学及び物理に関する口頭試問を含む。）	
	化学科	面	接	日本語で実施（数学及び化学に関する口頭試問を含む。）	
	生命理学科	面	接	日本語で実施（生物、化学及び物理に関する口頭試問を含む。）	
	地球惑星科学科	面	接	日本語で実施（数学、地学、物理、化学及び生物に関する口頭試問を含む。）	
医学部	医学科	筆記試験（理科）		生命科学を中心として出題（出題言語は日本語）	
		面	接	日本語で実施（口頭試問を含む。）	
	保健	看護学専攻	小	論文	日本語で実施
			面	接	日本語で実施
	保健	放射線技術科学専攻	面	接	日本語で実施（口頭試問を含む。）
			小	論文	日本語で実施（一部に英語に関する課題を含む。）
	面	接			日本語で実施
	保健	理学療法学専攻	小	論文	日本語で実施（一部に英語に関する課題を含む。）
			面	接	日本語で実施
		作業療法学専攻	小	論文	日本語で実施
面			接	日本語で実施	

学部・学科等		試験科目	出題範囲等
工学部	化学生命工学科	小論文	日本語で実施
		面接	日本語で実施
	物理工学科	小論文	日本語で実施
		基礎科目(物理)	「物理基礎・物理」より出題(出題言語は日本語)
		基礎科目(数学)	「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B」より出題【注】(2)(出題言語は日本語)
		面接	日本語で実施(上記基礎科目に関する口頭試問を含む。)
	マテリアル工学科	小論文	日本語で実施
		面接	日本語で実施
	電気電子情報工学科	小論文	日本語で実施
		面接	日本語で実施
	機械・航空宇宙工学科	小論文	日本語で実施
		面接	日本語で実施
	エネルギー理工学科	小論文	日本語で実施
		面接	日本語で実施
	環境土木・建築学科	小論文	日本語で実施
		面接	日本語で実施
	農学部	面接	日本語で実施(基礎学力としての日本語, 理科, 数学に関する口頭試問を含む。)

【注】(1) 上表中の「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」, 「数学A」, 「数学B」, 「物理基礎」, 「物理」は, 日本の高等学校教育課程の科目です。

(2) 「数学A」においては, すべての分野を, 「数学B」においては, 「数列」, 「ベクトル」の2分野を学習しておくことが望ましい。

工学部は, 全学科でオンラインでの選抜に変更します。 [令和3年12月21日更新]

また, 一部の学科で試験科目等の変更がありますので注意してください。

・物理工学科の「面接」は, 以下の基礎科目に関する口頭試問を含みます。

基礎科目(物理): 「物理基礎・物理」より出題

基礎科目(数学): 「数学・数学・数学・数学A・数学B」より出題

詳細は, 「令和4年度私費外国人留学生入試における新型コロナウイルス感染症に対する水際措置の強化に伴う入学志願者への配慮について」で必ず確認してください。

<https://www.nagoya-u.ac.jp/admissions/exam/us-exam/cat2/index.html>

IV 出願手続

本学ホームページから所定の様式をダウンロードして必要事項を入力した上で、A4判用紙に片面印刷してください。

入力できない場合は、所定の様式を印刷後に必要事項を黒インク又は黒ボールペンで丁寧に記入してください。(消せるボールペンでは記入しないでください。)

1. 出願書類の提出方法

市販の角形2号の封筒(240mm×332mm)に、所定の「志願票等送付用宛名ラベル」をカラー印刷したものを剥がれないように貼ってください。「3. 出願に要する書類等」を一括して封筒に入れ、志望学部等のあて先へ速達書留郵便で送付してください。(一つの封筒には、1名分のみ封入し、2名分以上封入しないでください。)

志望学部等	あ て 先		電話番号
文 学 部	〒464-8601 名古屋市千種区不老町 B4-4(700)	名古屋大学文学部入試担当	(052) 789-2207
教 育 学 部		名古屋大学教育学部入試担当	(052) 789-2606
法 学 部		名古屋大学法学部入試担当	(052) 789-2317
経 済 学 部		名古屋大学経済学部入試担当	(052) 789-2357
情 報 学 部	〒464-8601 名古屋市千種区不老町 B4-1(780)	名古屋大学情報学部教務学生係	(052) 789-4823
理 学 部	〒464-8602 名古屋市千種区不老町 D3-6(500)	名古屋大学理学部教務学生係	(052) 789-2808
工 学 部	〒464-8603 名古屋市千種区不老町 C2-4(600)	名古屋大学工学部教務課入学試験係	(052) 789-3978
農 学 部	〒464-8601 名古屋市千種区不老町 E2-1(300)	名古屋大学農学部教務学生係	(052) 789-4010
医学部医学科	〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65	名古屋大学医学部学務課学務係	(052) 744-2430
医学部保健学科	〒461-8673 名古屋市東区大幸南1-1-20	名古屋大学医学部大幸地区事務統括室大幸教務学生係	(052) 719-1521

2. 出願期間

令和3年12月24日(金) から令和4年1月6日(木) 16時必着

【注】(1) 出願書類の提出は郵送に限ります。

(2) 出願期限後に到着したものは受理しません。

3. 出願に要する書類等

	出 願 書 類 等	注 意 事 項
①	志願票	本学所定の様式に必要事項を入力の上印刷し、写真(たて4cm×よこ3cm、上半身、脱帽、正面向きで、出願前3か月以内に撮影のもの)を貼ってください。また、写真の裏面に志望学部(学科等)・氏名を記入してください。
②	写真票及び受験票	本学所定の様式に必要事項を入力の上印刷し、写真票には写真(志願票と同じもの)を貼ってください。
③	「出願資格」証明書(該当するもの)	日本語又は英語以外で作成されている場合は、日本語又は英語の訳文を添付してください。なお、大学・その他の学校等の在学期間のある者は、在学証明書又は卒業(修了)証明書(又は見込証明書)も提出してください。
	日本の高等学校に相当する学校の卒業(修了)証明書(又は見込証明書)及び学業成績証明書	左記の検定に合格した者のみ提出してください。 (大韓民国の「高等学校卒業学力検定考試」、アメリカ合衆国の「GED test」等が該当します。)
	外国において、学校教育における12年の課程を修了した者と同等以上の学力があるかどうかに関する認定試験であると認められる当該国の検定(国の検定に準ずるものを含む。)の合格証書(写)	日本語又は英語以外で作成されている場合は、日本語又は英語の訳文を添付してください。
	日本の大学に入学するための準備教育を行う指定された日本語学校等(22頁～26頁参照)の成績証明書及び修了証明書(又は見込証明書)	左記の学校等を修了(見込を含む。)したことにより、出願資格を得た者のみ提出してください。日本語又は英語以外で作成されている場合は、日本語又は英語の訳文を添付してください。

③	「出願資格」証明書(該当するもの)	国際バカロレア資格証書(写)と最終試験6科目の成績評価証明書	出願資格(2)イの国際バカロレア資格を取得した者のみ提出してください。
		アビトゥア資格の一般的大学入学資格証明書及び成績評価証明書(写)	出願資格(2)ウのアビトゥア資格を取得した者のみ提出してください。
		バカロレア資格証書(写)及び成績証明書	出願資格(2)エのバカロレア資格を取得した者のみ提出してください。
		ジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスド・レベル(GCE Aレベル)の成績評価証明書	出願資格(2)オのGCE Aレベル資格を取得した者のみ提出してください。
④	国家試験等の統一試験成績評価証明書	国家試験等の統一試験のある国では、その統一試験を受験していることが望ましい。受験した場合は、成績評価証明書を提出してください。 * 国家試験等の例 ① 大韓民国 大学修学能力試験 ② アメリカ合衆国 ・ SAT (Scholastic Assessment Test) ・ ACT (American College Testing) ③ 連合王国 GCE (General Certificate of Education) ④ その他の国の教育制度によるもの 試験の内容、性格、成績分布等を示す資料を添付してください。	
⑤	「日本留学試験」の成績通知書又は成績確認書(写)及び同受験票(写)	2020年度、又は2021年度に「日本留学試験」を受験した者は、いずれか1回の成績通知書又は成績確認書(写)及び受験票(写)を提出してください。 *必ず成績通知書又は成績確認書(写)と受験票(写)の両方を提出してください。	
⑥	TOEFLの成績通知書 (写)は不可、ただしTest Taker Score Report(又はExaminee Score Report)は(写)でも可	【TOEFLのスコア提出】 TOEFLは、公式スコア「Institutional Score Report(又はOfficial Score Report)」と受験者に届く「Test Taker Score Report(又はExaminee Score Report)(写)」の両方が必要になりますので以下の点に留意してください。 ①「Institutional Score Report(又はOfficial Score Report)」は、出願期間最終日までにETSから本学教育推進部入試課に届くように、所定の手続きをしておいてください。(手続き時に本学のDIコード「0312」を指定された方法で記入すれば直送できます。) ②出願書類提出時に「Test Taker Score Report(又はExaminee Score Report)(写)」を他の出願書類と一緒に提出してください。	
	IELTS(Academic Module)の成績証明書 [(写)は不可]	成績証明書(Test Report Form)の原本をテスト実施機関から名古屋大学教育推進部入試課宛てに直送してください。(宛先:〒464-8601名古屋市千種区不老町D4-4(100)) なお、本人宛ての成績証明書(Test Report Form)の原本を送付頂くことも可能ですが、その場合は他の出願書類と同じ封筒に入れ、志望学部等へ送付してください。	
⑦	在留カードの両面(写)、又は国籍及び在留資格を確認できるもの	原則として、在留カードの両面(写)を提出してください。 国籍及び在留資格を確認できるものとは、例えば、パスポート(写)、在日公館の証明書(日本語又は英語で作成されたものとし、これらの言語以外の場合は訳文を添付してください。)等です。	
⑧	検定料 17,000円 【注】(5)	検定料は、35頁の「4. 検定料の払込方法」を参照の上、コンビニエンスストア又はクレジットカードで払い込んでください。コンビニエンスストアで受領又は自ら印刷した「収納証明書」を志願票の所定欄に貼ってください。	

⑨	志願理由書 (文学部)	文学部の選考時に用います。文学部へ出願する方のみ、本学ホームページ (https://www.nagoya-u.ac.jp/) から所定の様式をダウンロード、A4サイズで印刷の上、 自筆 で記入して提出してください。
	志願理由・特別課題 (教育学部)	教育学部の選考時に用います。教育学部へ出願する方のみ、本学ホームページ (https://www.nagoya-u.ac.jp/) から所定の様式をダウンロード、A4サイズで印刷の上、 自筆 で記入して提出してください。
	特別課題・小論文 (法学部)	法学部の選考時に用います。法学部へ出願する方のみ、本学ホームページ (https://www.nagoya-u.ac.jp/) から所定の様式をダウンロード、A4サイズで印刷の上、 自筆 で記入して提出してください。 なお、小論文課題については、11月中旬に本学ホームページ内でお知らせします。
	特別課題 (経済学部)	経済学部の選考時に用います。経済学部へ出願する方のみ、本学ホームページ (https://www.nagoya-u.ac.jp/) から所定の様式をダウンロード、A4サイズで印刷の上、提出してください。 なお、記入方法は 自筆 、 パソコン入力 のどちらでも構いません。
⑩	オンライン面接受験誓約書 工学部に出願する方も提出してください。【注】(7)	オンラインでの面接を実施する文学部、教育学部、法学部、経済学部、情報学部、理学部及び農学部に出願する方のみ、本学ホームページ (https://www.nagoya-u.ac.jp/) から所定の様式をダウンロード、A4サイズで印刷の上、 自筆 で記入して提出してください。
⑪	受験票送付用封筒	本学所定の「受験票送付用宛名ラベル」をカラー印刷したものに「日本国内の連絡先」を記入して、94円切手を貼り、市販の長形3号の封筒(120mm×235mm)に剥がれないように貼ってください。 なお、団地・アパート等に居住している方は、棟番号、戸番まで必ず記入してください。下宿等の場合は「〇〇様方」などの方書を必ず記入してください。
⑫	出願書類チェック表	郵送前に、出願書類について、不足書類、記入もれ等の不備がないかを確認し、確認欄に✓をつけてください。 確認後、提出書類の一番上に重ねて提出してください。

- 【注】(1) ③～④の証明書において、科目名、成績評価等が符号、略字等により表示されている場合は、説明書を添付してください。
- (2) 提出された書類等に不備がある場合には、受理しません。また、受理後の出願書類等の変更は認めません。
- (3) いったん受理した出願書類等は、いかなる理由があっても返却しません。
- (4) 志願票はじめ出願書類等に虚偽の記載をした場合、記載すべき事項を記載しなかった場合又は提出すべき書類を提出しなかったことが判明した場合は、入学決定後でも入学許可を取り消すことがあります。
- (5) 出願書類を受理した後は、納入済みの検定料は返還しません。
- (6) 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、出願に要する書類等が変更となる可能性があります。変更する際は、本学ホームページ (<https://www.nagoya-u.ac.jp/>) で公表しますので、必ず確認してください。
- (7) 選抜方法の変更に伴い、工学部に出願する方は他の出願書類と併せて「オンライン面接受験誓約書」も提出してください。 [令和3年12月22日更新]
- (8) オンラインでの面接を実施する文学部、教育学部、法学部、経済学部、情報学部、理学部、工学部及び農学部に出願する方は「オンライン面接用連絡票」を「連絡票」に記載の志望学部の送付先メールアドレスへ出願期限までに送信してください。 [令和3年12月22日更新]

4. 検定料の払込方法

- (1) 検定料 17,000円

※別途、払込手数料が必要となります。払込手数料は(3)払込方法によって、異なります。

- (2) 払込期間（日本時間）

令和3年12月17日（金）10時～令和4年1月5日（水）15時まで

ただし、出願書類は郵送により令和4年1月6日（木）16時必着としていますので、検定料は早めに払い込んでください。

- (3) 払込方法

入学検定料等の支払いは、以下のいずれかの方法で行ってください。

詳細については、36頁「コンビニ・クレジットカードでの入学検定料支払方法」を確認してください。

ア コンビニエンスストア（日本国内のみ）

イ クレジットカード

- (4) 検定料の返還について

出願書類を受理した後は、納入済みの検定料は返還いたしません。ただし、以下に該当する場合は、納入された検定料を返還します。なお、返還にかかる振込手数料は差し引かせていただきます。

ア 検定料納入後、出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合

イ 検定料を二重に払い込んだ場合

※検定料の返還は銀行振込で行われます。海外の銀行の口座に返還する場合には、返還される金額は大きく減額される他、返還に多大な日数を要しますので、検定料の納入は慎重に行ってください。

<返還請求方法>

以下の3点を志望学部等のあて先（32頁参照）に郵送してください。なお、送付期限は令和4年2月25日（金）必着です。

- 収納証明書の原本（コンビニエンスストアまたはクレジットカード払いをした際に、印刷されたもの）
- 氏名（フリガナ）、日本国内の住所、連絡先の電話番号、返還請求の理由を記載したもの（様式は自由、用紙はA4サイズ）
- 返信用封筒（日本国内の連絡先の郵便番号、住所及び氏名を記入し、長形3号封筒に84円切手を貼ったもの）

後日、返還手続きに必要な書類を郵送します。

また、2段階選抜を行う学部の第1次選考の不合格者には、申請により13,000円を返還します。これに該当する者には、第1次選考結果の発表後に返還手続方法について連絡します。

コンビニ・クレジットカードでの入学検定料支払方法

コンビニ端末で直接お支払の場合(インターネット不要) ※日本国内のみ

クレジットカードでお支払の場合

1 お申込み

セブン-イレブン
マルチコピー機

<http://www.sej.co.jp>

最寄りの「セブン-イレブン」にある「マルチコピー機」へ。



TOP画面の「学び・教育」よりお申込みください。



学び・教育

↓

入学検定料等支払

LAWSON Loppi **MINISTOP Loppi**

<http://www.lawson.co.jp>
<http://www.ministop.co.jp>

最寄りの「ローソン」「ミニストップ」にある「Loppi」へ。



TOP画面の「各種サービスメニュー」よりお申込みください。



「各種申込(学び)」を含むボタン

↓

学び・教育・各種検定試験

↓

大学・短大・専門、小・中・高校等お支払い

<パソコン・スマートフォン>

本学「入学検定料支払い」ページにアクセス



<https://e-apply.jp/n/nagoya-u99/>



申し込む から

画面の指示に従って出願する入試を選んだ後、基本情報を入力。

入力内容が表示されます。間違いがなければ、次のページで表示される「受付番号(12桁)」を必ず控えたうえ、お支払い画面に進んでください。

※カード決済完了後の修正・取消はできません。申込を確定する前に、内容をご確認ください。

クレジットカードでお支払い



●お支払いされるカードの名義人は、受験生本人でなくても構いません。但し、前段の画面で入力する基本情報は、必ず受験生本人のものを入力してください。

名古屋大学 をタッチし、申込情報を入力して「払込票/申込券」を発券ください。

*漢字氏名入力欄において、漢字氏名のない方はカナ入力してください。
*画面ボタンのデザインなどは予告なく変更となる場合があります。

2 お支払い

①コンビニのレジでお支払いください。

端末より「払込票」(マルチコピー機)または「申込券」(Loppi)が出力されますので、**30分以内にレジにてお支払いください。**



②お支払い後、チケットとレシートの2種類をお受け取りください。

「取扱明細書」(マルチコピー機)または「取扱明細書兼領収書」(Loppi)。



*お支払い済みの入学検定料はコンビニでは返金できません。
*お支払期限内に入学検定料のお支払いがない場合は、入力された情報はキャンセルとなります。
*すべての支払方法に対して入学検定料の他に、払込手数料が別途かかります。

お支払い後に上記URLまたは支払い完了メールに記載されたURLへアクセス(※1)し、
「**取納証明書の印刷**」からPDFファイルをダウンロードの上、**印刷**してください。

※1:お申込の際に発行された「**受付番号(12桁)**」が必要です。

上記URLからアクセス

※PDFファイルを印刷するためのプリンターが必要となります。

3 出願

「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「**取納証明書**」部分を切り取り、志願票の「**入学検定料取納証明書貼付欄**」に貼付して郵送ください。



貼付する場合、「感熱・感圧紙などを変色させる場合があります」と記載のある欄は使用しないでください。「取納証明書」が黒く変色する恐れがあります。

【操作などのお問合わせ先】 学び・教育サポートセンター <https://e-apply.jp/> ※コンビニ店頭ではお応えできません。

5. 受験票の交付

受験票は、令和4年1月13日（木）に郵送します。

6. 障害のある者等の出願

障害のある者等で、受験上特別な配慮を必要とする者は、出願に先立ち、以下によりあらかじめ本学と相談してください。

(1) 相談の時期

令和3年11月30日（火）まで

(2) 相談の方法

以下の3点の書類（日本語又は英語で作成されたものとし、これらの言語以外の場合は、日本語又は英語の訳文を添付してください。）を提出してください。なお、必要に応じて、本学において志願者又はその立場を代弁し得る者との面談等を行います。

- ① 志望学部・学科（専攻）、障害等の状況、受験上の配慮を希望する事項等及び志願者本人の氏名、住所、電話番号を記載したもの（様式は自由、用紙はA4サイズ）
- ② 障害等に関する医師の診断書、障害者手帳等（写しでもかまいません。）
- ③ 出身学校関係者の添書（学校における生活状況及び学習上の配慮状況等を記載したもので、様式は自由、用紙はA4サイズ）

なお、入学後の修学に関して相談の希望がある者は、お問い合わせください。

(3) 相談先

本学教育推進部入試課まで相談してください。

7. その他

入学試験に関する照会は、以下のメールアドレスにお問い合わせください。

なお、問い合わせの際は、メールの件名を「私費外国人留学生入試について」とし、メール本文に氏名・出願（予定）学部学科等を、出願後の場合は受験番号を記入してください。

名古屋大学教育推進部入試課 nyuusi@adm.nagoya-u.ac.jp

V 受験上の注意

独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の受験票及び名古屋大学の受験票の二つは、志望学部（学科）が実施する入学試験当日必ず持参してください。

また、名古屋大学の受験票は入学手続等の諸手続に必要なので、試験終了後も保管しておいてください。

VI 合格者発表

1. 合格発表

令和4年2月17日（木）の11時から、本学ホームページで発表します。

本学ホームページでの発表は、トップページ (<https://www.nagoya-u.ac.jp/>) の「大学からのお知らせ（受験生向け）」からご覧ください。

なお、電話等による合否の問合せには応じません。

2. 合格通知書

合格通知書は、合格者本人宛て（日本国内の連絡先住所）に令和4年2月17日（木）に郵送します。

Ⅶ 入学手続

1. 「UCARO (ウカロ)」について

入学手続きの一部及び入学料の納入は、「UCARO (ウカロ)」を使用して行います。

入学手続には UCARO への会員登録 (無料)、および出願連携が必須です。

「UCARO」への会員登録 (無料) については、下記 URL から登録してください。

<https://www.ucaro.net/>

※会員登録時の ID (メールアドレス) 及びパスワードは必ず控えるようにしてください。

「出願連携」については、本学のホームページ (<https://www.nagoya-u.ac.jp/>) でご確認ください。

※出願連携は、システムの関係上、令和4年2月28日 (月) 以降に行ってください。

※他大学への出願時等に UCARO へ会員登録した者は、再度会員登録の手続を行う必要はありません。

出願連携のみ行ってください。

詳しいことは UCARO に掲載されている「よくある質問」等を参照してください。

<https://www.ucaro.net/faq>

〈UCARO に関する問い合わせ先〉

TEL : 0570-06-5524

受付時間 : 10時～18時まで

年末年始の休日 : 12月30日～1月3日

2. 入学手続

入学手続は、下記の期間内に行ってください。

所定の期限までに入学手続を行わなかった場合は、本学への入学を辞退したものとして取り扱いますので、十分注意してください。

〈入学手続期間〉

令和4年3月1日 (火) ～令和4年3月15日 (火) 午後3時まで 郵送 (必着)

○入学手続の方法

合格者は、UCARO 上の入学手続ページより、「令和4年度 名古屋大学入学手続要領」をダウンロードして詳細を確認し、手続を進めてください。手続の流れ・概略は以下のとおりです。

これらすべてを入学手続期間内に完了してください。

- ① 合格を確認後、UCARO 上の入学手続の該当ページで必要事項を入力する。
- ② UCARO のシステムを利用し、学生納入金のうち、入学料等の支払いに関する手続を行い、コンビニエンスストア等から入学料を振り込む。
- ③ 「令和4年度 名古屋大学入学手続要領」に記載されている必要提出書類を、簡易書留郵便で郵送する。

○入学手続書類送付先

送付先	住所	問い合わせ時間
名古屋大学 入学試験事務室	〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町 D44 (100)	月曜から金曜（祝日のぞく） 9：00～17：00

3. 入学料等学生納入金、および学生教育研究災害傷害保険料（予定）

UCARO のシステムを利用して手続を行い、下表の入学料及び学生教育研究災害傷害保険料を納入してください。
授業料は、入学後に納入してください。

学部（学科）	入学料	授業料	学生教育研究災害傷害保険料 （*は学研災付帯賠償責任保険を含む。）
文学部	282,000円	前期分 267,900円 年額 535,800円	3,300円
教育学部			*4,660円
法学部			3,300円
経済学部			*4,660円
情報学部			*4,660円
理学部			*4,660円
医学部 医学科			*7,800円
医学部保健学科（看護学専攻）			*5,370円
医学部保健学科（看護学専攻以外）			3,370円
工学部			*4,660円
農学部			*4,660円

- 【注】(1) 入学時又は在学中に学生納入金の改定が行われた場合には、改定時から新たな入学料額及び授業料額が適用されます。
- (2) 納入済みの入学料は返還しません。
- (3) 学生教育研究災害傷害保険料は、学部（学科）により異なります。
保険料の支払い方法は、入学手続要領を参照してください。
なお、保険料の改定が行われた場合、改定時から新たな保険料が適用されます。
- (4) 入学料等支払時に別途事務手数料が必要になります。事務手数料については入学手続要領をご確認ください。
- (5) その他、入学に必要な手続の詳細は、入学手続要領を参照してください。

Ⅷ 個人情報の取扱い

- (1) 個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「東海国立大学機構個人情報保護規程」に基づき、適切に取り扱います。
- (2) 出願時に得た住所、氏名、生年月日、その他の個人情報については、入学者選抜、合格者発表、入学手続業務を行うために利用します。
- (3) 出願時に得た個人情報内容及び入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。また、入学者についてのみ①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。
- (4) 上記(2)及び(3)の各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学が委託した業者に対して、当該業務を遂行するために必要となる限度内で個人情報の全部又は一部を提供します。

Ⅸ 令和3年度 名古屋大学私費外国人留学生入試
志願者・受験者・合格者数一覧

学部・学科・専攻		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
文 学 部		若 干 名	8	7	4	
教 育 学 部		若 干 名	4	2	1	
法 学 部		若 干 名	5	5	3	
経 済 学 部		若 干 名	21	11	8	
情 報 学 部	自 然 情 報 学 科	若 干 名	4	4	3	
	人 間 ・ 社 会 情 報 学 科	若 干 名	2	1	0	
	コ ン プ ュ ー タ 科 学 科	若 干 名	15	4	2	
	計		21	9	5	
理 学 部	数 理 学 科	若 干 名	3	3	2	
	物 理 学 科	若 干 名	4	3	3	
	化 学 科	若 干 名	2	2	1	
	生 命 理 学 科	若 干 名	1	1	0	
	地 球 惑 星 科 学 科	若 干 名	0			
	計		10	9	6	
医 学 部	医 学 科	若 干 名	2	2	0	
	保 健 学 科	看 護 学 専 攻	若 干 名	1	1	1
		放 射 線 技 術 科 学 専 攻	若 干 名	4	3	2
		検 査 技 術 科 学 専 攻	若 干 名	1	1	0
		理 学 療 法 学 専 攻	若 干 名	3	2	0
		作 業 療 法 学 専 攻	若 干 名	0		
		小 計		9	7	3
	計		11	9	3	
工 学 部	化 学 生 命 工 学 科	若 干 名	5	5	2	
	物 理 工 学 科	若 干 名	3	3	1	
	マ テ リ ア ル 工 学 科	若 干 名	2	2	1	
	電 気 電 子 情 報 工 学 科	若 干 名	7	6	1	
	機 械 ・ 航 空 宇 宙 工 学 科	若 干 名	5	5	1	
	エ ネ ル ギ ー 理 工 学 科	若 干 名	2	1	0	
	環 境 土 木 ・ 建 築 学 科	若 干 名	1	1	0	
	計		25	23	6	
農 学 部	生 物 環 境 科 学 科	若 干 名	4	4	1	
	資 源 生 物 科 学 科	若 干 名	1	1	0	
	応 用 生 命 科 学 科	若 干 名	7	6	2	
	計		12	11	3	
総 計		—	117	86	39	

注 受験者数には1次選抜(書類選考)の不合格者は含まれません。

大学案内及び学部紹介冊子の請求方法

- (1) 直接来学して入手する場合
入試課窓口で配布しております。(平日午前9時～午後5時)
- (2) 『モバっちょ』から請求する場合(日本国内のみ)
携帯電話, スマートフォン, パソコンから請求できます。



<https://djc-mb.jp/nagoya-u9/>

【料金の支払い方法】

- ① 請求時払い
携帯払い, スマホ払い, クレジットカード払いができます。(別途手数料が50円必要です)
※携帯電話・スマホの機種, 携帯電話会社との契約状況によって, 通話料金と一緒にお支払いできない場合がございます。その場合, コンビニ後払いを選択してください。
- ② コンビニ後払い
資料到着後, コンビニでお支払いください。(別途手数料が126円必要です。)

■上記請求方法についての問合せ先

大学情報センター株式会社 モバっちょカスタマーセンター
TEL. 050-3540-5005 (平日10:00～18:00)

名古屋大学東山地区試験場配置図



